

授業科目名： 体育実技 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大村一光、成田健造 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>陸上競技：中学校・高等学校免許取得へ向けて、陸上競技の基本技術やルールなどを学習し、教育現場で実践的に指導するための技術を習得する。</p> <p>水泳：中学校・高等学校で水泳指導を行う上での基本的な知識や技術を、講義及び実践を通して学び、安全かつ体系的に指導するための基礎を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技における走・跳・投の各種目特性を理解し測定方法や主体的学びを引き出すための学習法について理論学習も含めて学ぶ。 ・水泳では、水中という特殊な環境で実施されることから、水の特性について理解を深め、4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の基本技能の習得及びその指導方法について実践を通して学習する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：短距離走 スタート方法の習得とタイム計測法（担当：大村一光）</p> <p>第2回：短距離走 区間タイムを利用した学習法（担当：大村一光）</p> <p>第3回：リレー バトンパス学習と利得タイムについて（担当：大村一光）</p> <p>第4回：ハードル ハードリング技術とハードル走の実際（担当：大村一光）</p> <p>第5回：走り幅跳び 至適助走距離と測定方法（担当：大村一光）</p> <p>第6回：砲丸投げ 投げの基本と測定法（担当：大村一光）</p> <p>第7回：中・長距離走 マラソン6時間走におけるペースの考え方（担当：大村一光）</p> <p>第8回：水泳の講義 水泳の基礎知識、水の特性（担当：成田健造）</p> <p>第9回：水慣れ・水中運動 浮くこと・沈むこと、呼吸、水の抵抗（担当：成田健造）</p> <p>第10回：背泳ぎ 背浮、エレメンタリーバックストローク（担当：成田健造）</p> <p>第11回：平泳ぎ 正しい平泳ぎのキックと煽り足、腕の掻き、コンビネーション（担当：成田健造）</p> <p>第12回：バタフライ エレメンタリーバタフライ（担当：成田健造）</p> <p>第13回：これまでの復習・30分間泳（担当：成田健造）</p> <p>第14回：クロール 早く泳ぐクロール泳、ターン（担当：成田健造）</p> <p>第15回：実技テスト（担当：成田健造）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>学習時に資料を配布。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>陸上競技 実技試験(30%)、レポート(20%) 水泳 実技試験(30%)、レポート(20%) 陸上競技、水泳相互の成績をもとに評価を行う</p>			

授業科目名： 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：金浦美咲
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校の保健体育科教員として必要な基礎的技術を習得する。到達目標は、 1 ダンス・体づくり運動・器械運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。 2 基礎的な技能を身に付けることができる。 3 指導法について理解し、実践することができる。 4 他者との交流を通して、互いの技術をより良くしようとするすることができる。			
授業の概要 本授業では、中学校・高等学校の体育授業におけるダンス・体づくり運動・器械運動を取り扱う。それらの実技を通して、基礎的技術の習得、そして実践力と指導力の習得を目指す。講義は全て対面授業で行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、中学校・高等学校学習指導要領について 第2回：体づくり運動の意義について 第3回：ボールや縄跳びを使った体ほぐしの運動、体の動きを高める運動 第4回：マット運動（基本的技術の習得） 第5回：マット運動（発展：技を繋げて） 第6回：跳び箱運動（切り返し系の技の習得） 第7回：心と体をほぐすダンスについて 第8回：ペアで行う現代的なリズムのダンス 第9回：グループで行う現代的なリズムのダンス 第10回：フォークダンス 第11回：創作ダンス（新聞紙を使った表現） 第12回：創作ダンスの指導について（新聞紙になりきる表現） 第13回：創作ダンス（身近な生活などの題材から） 第14回：創作ダンス（ひとまとまりの動きの作品創作） 第15回：創作ダンスの作品発表会 定期試験は実施しない。			
テキスト 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省			
参考書・参考資料等 「明日からトライ！ダンスの授業」2011年 全国ダンス・表現運動授業研究会編 大修館書店			
学生に対する評価 受講態度・毎回の授業の振り返り（60%）、最終レポート（40%）			

授業科目名： 体育実技Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：玉田理沙子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 剣道の礼法や基本動作を正確に習得し、安全に稽古を行えるようにする。 2. 中段の構え、足さばき、竹刀操作を用いた基本技を身につけ、試合形式で実践できるようにする。 3. 稽古を通じて技術と体力を向上させ、剣道における礼儀や精神性を学ぶ。 4. 相手とのやり取りを通じて剣道の楽しさや意義を実感する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、中学校学習指導要領に基づき、剣道の礼法や基本動作を中心に稽古を行い、剣道の基本技術を習得することを目的とする。中段の構えや足さばき、竹刀操作を段階的に身につけ、相手とのやり取りを通じた攻防の楽しさを体感しながら、剣道に対する理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：剣道の歴史と礼法の基礎 第2回：剣道着と袴のつけ方 第3回：基本動作（中断の構え、構え方・納め方、足さばき） 第4回：基本動作（竹刀操作・素振り） 第5回：剣道具の着用、打ち方・打たせ方、切り返し① 第6回：一本打ちの技、切り返し② 第7回：二・三段の技、払い技、打ち込み稽古① 第8回：ひき技、打ち込み稽古② 第9回：抜き技、打ち込み稽古③ 第10回：すり上げ技、互角稽古① 第11回：出ばな技、互角稽古② 第12回：返し技、互角稽古③ 第13回：打ち落とし技、互角稽古④ 第14回：試合 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>「剣道講習会資料」全日本剣道連盟 「新中学校学習指導要領に準拠した安全で効果的な剣道授業の展開」全日本剣道連盟</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「剣道指導要領」全日本剣道連盟</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内で動作（50%）及び知識（50%）の確認を実施する。</p>			

授業科目名： 体育実技Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：濱田幸二
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 バレーボールのルールと基本的攻撃・守備戦術について理解する。			
授業の概要 1. セット&アタック系の技術習得と攻撃戦術のレベルアップ 2. ゲーム分析、チームビルディング、審判法をグループごとに遂行 3. 学校体育の授業指導、生涯スポーツのコーチングに幅広く応用できる授業内容			
授業計画 第1回：誰でもできる ジャンプセット（ワン・ツールのリズム） 第2回：コンビネーション攻撃 ダブルセмикイックアタック 第3回：必殺ブロック アタック対ブロック、ネット上の対決 第4回：ダブルクイックと時間差攻撃 審判基礎「吹笛とハンドシグナル」 第5回：戦術トレーニング基礎①「レシーブ&アタック」 審判実習 第6回：戦術トレーニング基礎②「サーブ&ブロック」 審判実習 第7回：戦術トレーニング応用① 3人制ミニバレー 記録実習 審判応用 第8回：戦術トレーニング応用② 4人制ミニバレー 記録実習 審判応用 第9回：6人制バレーボールのセッターフォーメーション（6-2の攻守） 第10回：6人制バレーボールのセッターフォーメーション（5-1の攻守） 第11回：リーグ戦 第1戦 総合実習（班対抗リーグ戦1・記録・審判） 第12回：リーグ戦 第2戦 総合実習（班対抗リーグ戦2・記録・審判） 第13回：リーグ戦 第3戦 総合実習（班対抗リーグ戦3・記録・審判） 第14回：トーナメント戦 第1戦 総合実習（班対抗トーナメント戦1・記録・審判） 第15回：トーナメント戦 第2戦 総合実習（班対抗トーナメント戦2・記録・審判）まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 適宜配布する			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省 審判実習用ホイッスル持参、タブレット型情報端末持参、必ず体育館シューズで受講する事			
学生に対する評価 授業所感の記入、取組、実技技能により総合的に評価する			

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 玉田理沙子、飯干紀代子 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では自身のスポーツ経験に関連づけてスポーツ心理学を考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について説明できるようになることである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（担当：玉田理沙子） 第2回：心理学とスポーツ心理学（担当：飯干紀代子） 第3回：スポーツとウェルビーイング（生涯発達の観点から）（担当：飯干紀代子） 第4回：運動と制御（担当：玉田理沙子） 第5回：運動と学習（担当：玉田理沙子） 第6回：スポーツにおける動機付け（担当：玉田理沙子） 第7回：スポーツの社会心理（集団凝集性、リーダーシップ）（担当：玉田理沙子） 第8回：スポーツの社会心理（ライフスキル）（担当：玉田理沙子） 第9回：競技心理（あがり、スランプ）（担当：玉田理沙子） 第10回：臨床スポーツ心理（メンタルトレーニング）（担当：玉田理沙子） 第11回：臨床スポーツ心理（バーンアウト、カウンセリング）（担当：玉田理沙子） 第12回：運動による健康の増進（パーソナリティ、自尊感情）（担当：玉田理沙子） 第13回：運動による健康の増進（ストレス）（担当：玉田理沙子） 第14回：コーチングとスポーツ心理学（担当：玉田理沙子） 第15回：まとめ（担当：玉田理沙子） 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト 授業内で紙媒体またはMoodleで資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「よくわかるスポーツ心理学―初版第7刷―」2018年 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著 ミネルヴァ書房 「これから学ぶスポーツ心理学 三訂版」2023年 荒木雅信・山本真史編著 大衆館書店 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>まとめレポート（50%）、リアクションペーパー（30%）、授業態度（20%）を総合的に判断する。</p>			

授業科目名： 運動方法学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松江拓 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 トレーニングに関する基礎知識を理解する。 対象、目的に応じたトレーニング方法について理解する。 トレーニングに関する情報を収集し、まとめることができる。			
授業の概要 本授業では心身の健康を保持。増進するための有効な方法のひとつである、身体のトレーニングについての基礎を学ぶ科目である。また、講義内容に関する情報収集を行い、諸問題について考える。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：健康を推進するための生活習慣 第3回：運動習慣と生活習慣病 第4回：トレーニング科学とは 第5回：運動習慣を作ろう ～トレーニング篇～ 第6回：身体の仕組み・はたらき 第7回：エネルギー供給系 第8回：スポーツとアクシデント 第9回：力のトレーニング 第10回：トレーニングと食事 第11回：スピードとパワーのトレーニング 第12回：持久力のトレーニング 第13回：応用的なトレーニング 第14回：トレーニングの記述 第15回：総まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 適宜資料を配布する			
参考書・参考資料等 「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学～トレーニングに普遍的な正解はない～」2021年 山本正嘉 市村出版 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省			
学生に対する評価 授業中の課題等（50％）確認テスト（50％）			

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：北村尚浩
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「スポーツと社会」をテーマに、①現代社会においてスポーツが果たす役割・機能と課題を多角的に理解し、②スポーツの重要性を認識する。			
授業の概要 スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考究する。生涯スポーツや競技スポーツの現場での諸現象について、社会学的立場から批判的、実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望を明らかにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・スポーツ社会学とは 第2回：現代社会とスポーツ 第3回：プレイ論 第4回：スポーツと社会化 第5回：スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本法とスポーツ庁 第6回：スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本計画 第7回：青少年のスポーツ 第8回：加齢とスポーツ：高齢者スポーツとQOL 第9回：障害者スポーツの現状と課題 第10回：スポーツによる地域活性化（1）：総合型地域スポーツクラブ 第11回：スポーツによる地域活性化（2）：スポーツイベントとスポーツツーリズム 第12回：スポーツ指導者制度とスポーツボランティア 第13回：スポーツとビジネス 第14回：大学スポーツ 第15回：スポーツと暴力 定期試験			
テキスト 「生涯スポーツ実践論 改訂5版」川西正志・野川春夫監修 市村出版			
参考書・参考資料等 「スポーツ社会学事典」日本スポーツ社会学会編 丸善出版			
学生に対する評価 定期試験の成績70%に、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況・小レポート・課題レポート等30%を加えて総合的に評価する。			

授業科目名： 運動生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹中正巳
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生理学（運動生理学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動時の身体器官の反応、運動を行うことによる体の形態や機能の変化を主なテーマとする。運動時の人体の構造と機能の変化を理解することにより、健康的な生活実践やスポーツ実践ができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>運動やトレーニングを行うと身体の諸機能は応答し、反応する。本講義では、運動に素早く応じる動物性機能（筋運動系や中枢神経機能系、感覚器系など）と、生命維持する上で必須の植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系など）に大別し、運動に対する器官系の応答・適応現象とそれらのメカニズムを概説する。加えて、健康管理や体力の維持向上に効果的な運動についても解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：骨格筋の構造と筋収縮①（骨格筋の構造、筋収縮のしくみ、筋繊維の種類） 第2回：骨格筋の構造と筋収縮②（静的・動的収縮、運動の筋力・筋量へ影響） 第3回：運動と神経系①（神経系の構造と機能、中枢神経と末梢神経） 第4回：運動と神経系②（筋肉の感覚受容器と神経、神経系による運動の調節） 第5回：運動と血液循環①（心臓の働きと血液の循環、動脈、静脈、毛細血管） 第6回：運動と血液循環②（運動と血圧、運動への心臓や骨格筋の適応） 第7回：運動と呼吸①（呼吸運動（肺換気）のしくみ、肺と組織でのガス交換） 第8回：運動と呼吸②（運動時の呼吸の変化、呼吸の調節） 第9回：運動と栄養（栄養素、エネルギー消費、身体組成、タンパク質代謝、筋肉とタンパク質） 第10回：運動とエネルギー源（ATP、糖質と脂質、疲労と糖質） 第11回：運動と骨格①（骨の構造と機能、関節の構造と機能） 第12回：運動と骨格②（骨代謝、運動と骨量） 第13回：体温調節と水分補給（熱産生、熱放散、体温調節、脱水・熱中症、水分・電解質補給） 第14回：加齢と身体機能の変化（筋力・筋量の変化、骨量の変化、持久力の変化、運動の効果） 第15回：運動と健康（運動の身体活動の影響、運動による疾患予防、体力健康維持のための運動）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「運動生理学 改訂第2版」2024年 麻見直美・川中健太郎（編） 羊土社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「運動生理学—生理学の基礎から疾病予防まで」（第2版）2013年 小山 勝弘・安藤 大輔（編集） 三共出版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を踏まえて、運動生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。 ・毎授業ごとの小テストの結果（60点）と定期試験の結果（40点）を合わせて評価する。 			

授業科目名： 人体の構造と機能及び疾病	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：胸元孝夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生理学（運動生理学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、さらに、がん・難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解できる。また、ストレスの精神・身体に及ぼす影響について理解を深め、国際生活機能分類、健康観についての知識を得る。現代社会特有の疾病の予防、生活習慣との関連についても理解を深め、高齢化に伴って増加する疾患についての最近の知見などについても理解できる。			
授業の概要 心理・福祉・教育領域の仕事に従事する予定の者、あるいは自分の健康増進・維持に努めたい者にとって必要な基本的医学知識を学習する。心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害、さらに、がん・難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について、幅広く学習する。			
授業計画 第1回：簡単な医学の歴史と人体 第2回：心身機能と身体構造：骨、筋肉、血管系について 第3回：身体構造と心身機能：血液、呼吸器系、消化器系、泌尿器系について 第4回：疾病の概要：循環器系、免疫系、内分泌系について 第5回：心身機能と身体構造：中枢神経系、感覚器、皮膚、生殖器について 第6回：ヒトの成長・発達と老化 第7回：健康のとらえ方 第8回：“がん”について 第9回：様々な疾病や障害：生活習慣病の概念について 第10回：様々な疾病や障害：糖尿病、虚血性心臓病、高血圧症、脂質異常症 第11回：様々な疾病や障害：高齢者と疾患（認知症など） 第12回：様々な疾病や障害：感染症について 第13回：様々な疾病や障害：精神神経疾患について 第14回：心理に関する支援が必要な主な疾患：先天性疾患／難病について 第15回：発達障害について 定期試験			
テキスト 「新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病 第3版」社会福祉士養成講座編集員会 中央法規出版			
参考書・参考資料等 「グレイ解剖学」、「系統看護学講座」医学書院、その他（図書館にある医学に関する図書）			
学生に対する評価 試験（70%）、小テスト、質問など（30%）を目安として、総合的に評価する。			

授業科目名： 衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内匠正太 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>環境問題や身の回りの環境が私たちの健康にどのような影響を与えるのかについて学び、疾病の予防に必要な対策や取り組み等について理解する。また、課題解決に向けたグループ活動を通して、社会に関心を持つ態度を身につけると共に、他者との協調・協働を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人の健康に害を及ぼす食中毒や環境汚染など、身の回りに存在するリスク要因を具体的に学ぶことにより、健康に生活するために必要な対策や取り組み等について理解する。また、授業の理解を深めるために、受講生同士のディスカッションやグループ活動を取り入れている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：予防医学の概念 第2回：公害の歴史 第3回：水俣病について考える 第4回：環境と健康 第5回：物理的要因と健康 第6回：感染症 第7回：食品衛生・食中毒 第8回：生活習慣病・メタボリックシンドローム 第9回：学校保健・国際保健 第10回：中間試験・まとめ 第11回：衛生学調査の概要説明 第12回：衛生学調査・報告①（衛生学上の課題を選出） 第13回：衛生学調査・報告②（選出した課題への対応方法を調査する） 第14回：衛生学調査・報告③（課題への対応方法を提言する） 第15回：衛生学調査・報告④（調査・報告を発表する）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 「公衆衛生がみえる2024-2025」メディックメディア			
参考書・参考資料等 「国民衛生の動向」一般財団法人厚生労働統計協会			
学生に対する評価 中間試験（50%）、及び衛生学調査・報告（50%）を総合的に判定する。			

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内匠正太 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国や企業がどのような取り組みを実際に行っているか学び、社会で生活する上で必要な社会保障制度や保険等について理解する。また、課題解決に向けたグループ活動を通して、社会に関心を持つ態度や自ら調査できる姿勢を身につけると共に、他者との協調・協働を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公衆衛生学では、公衆の健康を保持するための取り組みや制度、集団の健康状態に影響を与える要因等を抽出する疫学についての基礎を学ぶことを目的とする。また、授業の理解を深めるために、受講生同士のディスカッションやグループ活動を取り入れている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・健康と公衆衛生 第2回：高齢者保健・介護保健 第3回：母子保健 第4回：精神保健 第5回：福祉制度 第6回：疫学とは 第7回：健康、疾病、行動にかかわる統計 第8回：保健統計 第9回：疫学演習 第10回：まとめ・中間試験 第11回：疫学・統計調査の概要説明 第12回：疫学・統計調査①（課題の選出） 第13回：疫学・統計調査②（選出した課題を調査する） 第14回：疫学・統計調査③（課題への対応方法を提言する） 第15回：疫学・統計調査④（調査・報告を発表する）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 「公衆衛生がみえる2024-2025」メディックメディア			
参考書・参考資料等 「国民衛生の動向」一般財団法人厚生労働統計協会			
学生に対する評価 中間試験（50%）、及び疫学・統計調査・報告（50%）を総合的に判定する。			

授業科目名： 学校保健Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：満田タツ江 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法について学び、学校保健活動の実際を理解する。 ・学校保健、学校安全の領域と構造について学び、組織活動について理解する。 ・小児の健康課題を理解するとともに救急処置について学ぶ。 ・教育現場で生じているメンタルヘルスの問題を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>児童生徒が健康で安全な学校生活が送れるよう、学校保健や、学校安全に関する全般的な内容を扱う。同時に小児保健や精神保健についても学習する。 また、学校での事故や傷病に対応できる救急処置を行う。 同時に、学校の管理下における災害と災害共済給付についての執務や学校における感染症対策について、事例等を用いて展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校保健の概要と学校保健安全法 第2回：学校保健関係職員と組織活動 第3回：学校保健安全計画と評価 第4回：児童生徒の保健活動と学校保健委員会 第5回：学校環境衛生活動と事後措置 第6回：心身の健康管理と生活の管理 第7回：学校における精神保健と子どもの抱えるこころの問題 第8回：保健教育の概要・目標と位置づけ 第9回：学校安全の意義と構造 安全管理と安全点検 第10回：安全教育の領域と構造 養護教諭の関わり 第11回：小児保健Ⅰ 小児の発育・発達と健康状態の観察 第12回：小児保健Ⅱ 小児の病気とその対応 第13回：救急処置（小児救急を含む） 第14回：学校における感染症の予防と対応 第15回：学校管理下における災害とスポーツ振興センター法</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）」学校保健・安全実務研究会 第一法規</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「学校保健の課題とその対応」日本学校保健会</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験70%、平常点（授業への取組や課題）30%を総合的に判断する。</p>			

授業科目名： 精神保健Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大島英世
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉・臨床心理学的観点から、精神保健の問題、地域社会における精神保健に関する取り組みについて理解、説明できる ・ストレス反応とストレス対処法、精神保健活動の場で行う対人援助のあり方、専門性について理解、説明できる 			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・精神保健の意義、生活環境とライフサイクルにおける精神保健の問題について理解する。 ・精神的健康を支える社会資源について理解する。 ・必要に応じて学生同士のディスカッションやグループワークを取り入れる。 			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：精神保健とストレス対処 第3回：ライフサイクルと精神保健 第4回：生活習慣と精神的健康 第5回：精神科医療の現状と課題 第6回：精神の健康に関する心的態度 第7回：生活と嗜癖の問題 第8回：家族における精神保健 第9回：育児・出産をめぐる精神保健 第10回：介護をめぐる精神保健 第11回：ひきこもり・家族関係と精神保健 第12回：グリーフケアと支援 第13回：学校における精神保健 第14回：教員の労働環境と精神保健 第15回：労働環境における精神保健 定期試験			
テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉養成講座2 現代の精神保健の課題と支援」中央法規出版			
参考書・参考資料等 はかた動作法研究会「目で見える動作法 初級編」金剛出版			
学生に対する評価 小レポート・受講態度：30%、試験：70%			

授業科目名： 救急処置Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：胸元孝夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 基本的な救急疾患の病態を理解する。2. 心肺蘇生法を十分に理解する。3. 基本的な救急処置について理解する。			
授業の概要 救急とは何かを理解する。身近に出会う救急場面に対応する1次救急について理解し、救急処置Ⅱで技術の習得がスムーズにできるような基礎的知識を身につける。解剖学・生理学や病理学を基に人体の臨床的な基礎から学習する。日常生活で起こりうる救急場 面を想定した疾患、外傷を紹介し、救急医療のシステム、心肺蘇生の方法、救急疾患への対応法、簡単な外傷への対応法などを学習する。			
授業計画 第1回：救急とは何か、救急について学ぶ意義 第2回：様々な救急の状態を紹介し対応を考える 第3回：救急処置についての基本的な対応、心肺蘇生法など 第4回：心臓及び血管の救急疾患について 第5回：呼吸器系の救急（気管支喘息、気胸など）について 第6回：消化器系疾患（急性腹症など）について 第7回：内分泌・代謝疾患の救急疾患（低血糖、高血糖など）について 第8回：熱中症など、環境変化による救急について 第9回：感覚器の救急（眼外傷など）について 第10回：筋骨格系の救急疾患（骨折、打撲、捻挫、脱臼など）について 第11回：中枢神経系の救急疾患（てんかん等）について 第12回：頭部外傷、心臓震盪、脳震盪等などについて 第13回：中毒について 第14回：災害医療について 第15回：心肺蘇生法のDVD視聴及び演習 定期試験			
テキスト 「養護教諭のための救急処置 第3版」松野智子・齋藤千景：編著 少年写真新聞社 「好きになる救急医学」小林國男(著) 講談社 「標準救急医学」監修：日本救急医学会 医学書院			
参考書・参考資料等 「新版 学校救急処置」草川功 全国養護教諭サークル協議会			
学生に対する評価 定期試験70%、小テストなど（30%）とし、総合的に評価する。			


授業科目名： 救急処置Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：胸元孝夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応急手当の基本知識と技能を修得する。 ・ 傷病者に対し観察し、適切な判断と対応ができる。 ・ 救助者としての心得と態度を学ぶ。 			
<p>授業の概要</p> <p>病院搬送までの傷病者の一時的処置について傷病者と救助者両方を体験する。 どんな救急場面に遭遇しても冷静に判断し適切に対応できるよう、知識・技能を育成するために4日間の集中実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：救急法の概要 第2回：救急処置①（心肺蘇生法） 第3回：救急処置②（AEDの使用法、気道内異物除去法等） 第4回：救急処置 想定訓練 第5回：傷の手当て①（三角巾の使い方等） 第6回：傷の手当て②（止血法、包帯法） 第7回：骨折の手当て（脱臼、捻挫、打撲等） 第8回：搬送（一人で多人数での搬送、特殊な状況での移動方法等） 第9回：体位変換 第10回：救護① 災害時の心得と救護 第11回：救護② 災害現場を想定した演習 第12回：実技試験 心肺蘇生+AED 第13回：実技試験 止血 第14回：実技試験 傷の手当 第15回：筆記試験（傷の手当、災害時の救護法及び実技内容についての試験とその解説） 定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 「救急法講習教本」 日本赤十字社			
参考書・参考資料等 「新版 学校救急処置」 2018年 草川功(他) 農山漁村文化協会			
学生に対する評価 筆記試験 50%、実技試験 50%			

授業科目名： 保健体育科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中島友樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1 中学校・高等学校「保健体育科」についての目標・内容・全体構造を把握し、その指導法を理解する。			
2 教材・教具を開発・運用するための理論及び具体的な方法を理解するとともに、教材研究に活用し指導法を構築する。			
授業の概要			
中学校・高等学校「保健体育科」における目標・内容・全体構造を把握し、基礎的な学習指導理論を理解する。そのために、学習指導要領の変遷を通して保健体育科教育の歴史をたどり、スポーツの楽しさや意義が保健体育科教育に反映されていることを理解する。さらに、保健体育科の目標に記されていることがらについて解釈し、目標を具現化する指導のあり方について考察することを通して、実際の授業場面の視聴等を通して具体的な指導方法を身に付ける。			
授業計画			
第1回：保健体育科教育の楽しさと存在意義			
第2回：保健体育科教育の歴史的変遷			
第3回：保健体育科の目標論			
第4回：保健体育科の内容論			
第5回：よい体育授業のための基礎的条件			
第6回：保健体育科の教材論 (1) 球技競技領域を例に			
第7回：保健体育科の教材論 (2) 陸上競技領域を例に			
第8回：保健体育科の教材論 (3) 器械運動領域を例に			
第9回：保健体育科の指導論 (1) 球技領域を例に①／情報機器及び教材の効果的な活用について			
第10回：保健体育科の指導論 (2) 球技領域を例に②／情報機器及び教材の効果的な活用について			
第11回：保健体育科の指導論 (3) 水泳領域を例に／情報機器及び教材の効果的な活用について			
第12回：体育教師に求められる力量			
第13回：保健体育科授業の分析（よい授業への到達度調査）			
第14回：保健体育科のカリキュラム論			
第15回：講義のまとめ			
定期試験			
テキスト			
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省			
「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省			
参考書・参考資料等			
「内容学と架橋する普遍的体育科教育論」2024年 後藤幸弘 杏林書院			
「新版 体育科教育学入門」2010年 高橋健夫 他 大修館書店			
「体育の授業を創る－創造的な体育教材研究のために－」1994年 高橋健夫 大修館書店			
学生に対する評価			
確認試験の成績（50%）、レポート（25%）、毎回のふり返り（25%）により総合的に行う。			

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中島友樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1 中学校・高等学校「保健体育科」についての目標・内容を把握した上で、その指導・評価法を理解する。</p> <p>2 授業参観や模擬授業等を通して指導改善や学習評価の視点を獲得し、授業における実践的な指導法を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校・高等学校「保健体育科」における目標・内容・全体構造を把握した上で、実践的な学習指導の方法論を理解する。そのために、学習指導と表裏一体を成す評価に着目し、今日の学校体育に必要とされる基本的な捉え方とその活用方法を理解する。さらに、実際の保健体育科の授業を参観・視聴・体験し、指導上の具体的な留意点を理解することを通して、授業改善及び評価の視点を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体育の教材づくりについての基本概念</p> <p>第2回：種目特性と本質的な楽しさを担保した教材開発の在り方</p> <p>第3回：優れた体育の教材について（1）クローズスキル系の運動種目を例に</p> <p>第4回：優れた体育の教材について（2）オープンスキル系の運動種目を例に</p> <p>第5回：球技（ゴール型）の実践例から学ぶ実践的な指導法</p> <p>第6回：球技（ネット型）の実践例から学ぶ実践的な指導法</p> <p>第7回：球技（ベースボール型）の実践例から学ぶ実践的な指導法</p> <p>第8回：攻撃的戦術行動に着目したボールゲームのカリキュラム</p> <p>第9回：評価の概念と歴史</p> <p>第10回：評価の意味と機能</p> <p>第11回：体育評価の方法（1）個人種目を例に</p> <p>第12回：体育評価の方法（2）集団種目を例に</p> <p>第13回：学校現場における体育評価の現状と課題</p> <p>第14回：保健体育科授業における学習者からの評価</p> <p>第15回：講義のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省</p> <p>「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「内容学と架橋する普遍的体育科教育論」2024年 後藤幸弘 杏林書院</p> <p>「新版 体育科教育学入門」2010年 高橋健夫 他 大修館書店</p> <p>「体育の授業を創る－創造的な体育教材研究のために－」1994年 高橋健夫 大修館書店</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>確認試験の成績（50%）、レポート（25%）、毎回のふり返り（25%）により総合的に行う。</p>			

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 玉田理沙子、中島友樹 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導緒法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校・高等学校学習指導要領の前半単元（例：健康の成立と保持増進、心身の発達と健康、安全教育の基礎など）を正確に理解する。 2. 各単元に基づいた指導案を作成し、模擬授業の準備を行える。 3. ICTを活用した教材作成や授業設計の基礎を習得する。 4. フィードバックを通じて指導案を改善し、基礎的な指導力を養成する。 			
授業の概要			
<p>本授業では、中学校・高等学校の学習指導要領に基づき、保健教育の前半部分の単元（例：健康な生活、疾病予防、心身の発達、安全教育の基礎など）を対象に学習を進める。講義を通じて学習指導要領や評価方法、ICT活用の基礎を学び、指導案作成の実践力を養う。その後、模擬授業を行い、他の学生からのフィードバックを通じて指導案を改善し、授業設計のスキルを段階的に向上させることを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：〔講義〕 オリエンテーション（授業の目的と進め方の説明） 第2回：〔講義〕 中学校学習指導要領の目標と構造の理解 第3回：〔講義〕 高等学校学習指導要領の目標と構造の理解 第4回：〔講義〕 学習指導要領改訂の内容と背景 第5回：〔講義と演習〕 指導案作成の基礎講義と実践演習 第6回：〔模擬授業〕 中学校・健康な生活と疾病予防、フィードバックと改善 第7回：〔模擬授業〕 高等学校・現代社会と健康、フィードバックと改善 第8回：〔模擬授業〕 中学校・心身の発達と健康、フィードバックと改善 第9回：〔模擬授業〕 高等学校・生涯を通じる健康、フィードバックと改善 第10回：〔模擬授業〕 中学校・傷害の防止、フィードバックと改善 第11回：〔模擬授業〕 高等学校・安全な社会生活、フィードバックと改善 第12回：〔模擬授業〕 中学校・健康と環境、フィードバックと改善 第13回：〔模擬授業〕 高等学校・健康を支える環境づくり、フィードバックと改善 第14回：〔模擬授業〕 中学校・応急手当、フィードバックと改善 第15回：〔まとめ〕 振り返りと中学校・高等学校の連続性の確認 定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省			
参考書・参考資料等			
「最新 中学校保健体育」2021年 大修館書店 「現代高等保健体育」2022年 大修館書店			
学生に対する評価			
指導案の作成（40%）、模擬授業の実施（40%）、フィードバックと振り返り（20%）を総合的に判断する。			

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 玉田理沙子、中島友樹 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導緒法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校・高等学校学習指導要領の後半単元（例：精神的健康、依存の予防、性教育、健康を支える環境など）を正確に理解する。 2. 模擬授業を通じて、応用的な指導力と授業設計のスキルを習得する。 3. ICTを活用した効果的な授業を実施し、現代的健康課題に対応する力を養う。 4. フィードバックや評価を基に指導案を改良し、より効果的な保健教育を設計できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、中学校・高等学校の学習指導要領に基づき、保健教育の後半部分の単元（例：精神的健康、依存行動の予防、性教育、医療制度や環境と健康など）を対象に学習を進める。学生は指導案を作成し、それを基にした模擬授業を中心に授業を進める。すべての模擬授業ではICTを活用し、他の学生や教員からのフィードバックを受けて指導案の改善を繰り返す。これにより、応用的な指導力と現代的な健康課題への対応力を育成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：〔講義〕総合的な健康教育の意義と現代的課題 第2回：〔講義と演習〕指導案作成と応用演習 第3回：〔模擬授業〕中学校・喫煙・飲酒と健康、フィードバックと改善 第4回：〔模擬授業〕高等学校・依存と健康、フィードバックと改善 第5回：〔模擬授業〕中学校・ストレスと心の健康、フィードバックと改善 第6回：〔模擬授業〕高等学校・精神的健康の重要性、フィードバックと改善 第7回：〔模擬授業〕中学校・性に関する健康、フィードバックと改善 第8回：〔模擬授業〕高等学校・性に関する問題への対応、フィードバックと改善 第9回：〔模擬授業〕中学校・食生活と栄養、フィードバックと改善 第10回：〔模擬授業〕高等学校・高齢社会と健康、フィードバックと改善 第11回：〔模擬授業〕高等学校・医療制度と社会的責任、フィードバックと改善 第12回：〔模擬授業〕中学校・自然環境と健康、フィードバックと改善 第13回：〔模擬授業〕高等学校・社会的環境と健康、フィードバックと改善 第14回：〔模擬授業〕高等学校・安全教育総合演習、フィードバックと改善 第15回：〔まとめ〕全単元の振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「最新 中学校保健体育」2021年 大修館書店 「現代高等保健体育」2022年 大修館書店</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>指導案の作成（40%）、模擬授業の実施（40%）、フィードバックと振り返り（20%）を総合的に判断する。</p>			

授業科目名： 学校インターンシップA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：新納雅樹
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 教諭の指導の下に、授業準備や教材の作成、学校行事の手伝い等を行い、自らの教員としての適性を考えさせる機会とする。			
授業の概要 内諾をいただいた中学校で、1週間のインターンシップを行う。			
授業計画			
第1回：事前指導（インターンシップに行く前に、大学の教職担当教員がインターンシップの意義と心構え、諸注意事項、実習校についての指導を行う。）			
第2回： インターンシップの実際（各実習校）			
 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各実習校で管理職をはじめ先生方から、教育の目標、育てたい生徒像、教師としての心構え、保護者や地域との連携のあり方、実習校の生徒の実態等について指導を受け、よく理解して行動する。 (2) 担当教諭から、教師の業務、教材研究のあり方、授業の展開の仕方、生徒とのコミュニケーションのとり方、常に研修を継続すること等についての指導を受け、よく理解して行動する。 (3) 担当教諭の授業での指導を通して、授業準備や教材作成、授業観察・学習支援等のあり方について学び、実際の場面で生かせるようにする。 (4) 担当教諭の授業の中で、実際に学習支援を必要とする生徒等に、担当教諭の指導を受けながらできる学習支援を行う。 (5) 担当教諭の指導の下で、授業以外の学校行事の手伝い、朝の挨拶運動への参加、朝読書、校内美化活動等への参加、給食指導、放課後の部活動への参加等を行い、なるべく生徒との関わりを持つようにする。 			
第14回：			
第15回：事後指導（インターンシップの実習記録日誌と実習報告レポート等の作成を行い、インターンシップの振り返りを通して、今後に生かすようにする。）			
定期試験は実施しない。			
テキスト 中学校から配付されたプリント等			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」文部科学省			
学生に対する評価 実習報告レポート(80%)、事前・事後指導の態度(20%)を含めて総合的に判断する			

授業科目名： 学校インターンシップB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新納雅樹
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 教諭の指導の下に、授業準備や教材の作成、学校行事の手伝い等を行い、自らの教員としての適性を考えさせる機会とする。			
授業の概要 内諾をいただいた中学校で、2週間のインターンシップを行う。			
授業計画 第1回：事前指導（インターンシップに行く前に、大学の教職担当教員がインターンシップの意義と心構え、諸注意事項、実習校についての指導を行う。） 第2回： インターンシップの実際（各実習校） <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 100px; margin-right: 10px;"></div> <div style="flex-grow: 1;"> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各実習校で管理職をはじめ先生方から、教育の目標、育てたい生徒像、教師としての心構え、保護者や地域との連携のあり方、実習校の生徒の実態等について指導を受け、よく理解して行動する。 (2) 担当教諭から、教師の業務、教材研究のあり方、授業の展開の仕方、生徒とのコミュニケーションのとり方、常に研修を継続すること等についての指導を受け、よく理解して行動する。 (3) 担当教諭の授業での指導を通して、授業準備や教材作成、授業観察・学習支援等のあり方について学び、実際の場面で生かせるようにする。 (4) 担当教諭の授業の中で、実際に学習支援を必要とする生徒等に、担当教諭の指導を受けながらできる学習支援を行う。 (5) 担当教諭の指導の下で、授業以外の学校行事の手伝い、朝の挨拶運動への参加、朝読書、校内美化活動等への参加、給食指導、放課後の部活動への参加等を行い、なるべく生徒との関わりを持つようにする。 </div> </div> 第14回： 第15回：事後指導（インターンシップの実習記録日誌と実習報告レポート等の作成を行い、インターンシップの振り返りを通して、今後に生かすようにする。） 定期試験は実施しない。			
テキスト 中学校から配付されたプリント等			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」文部科学省			
学生に対する評価 実習報告レポート(80%)、事前・事後指導の態度(20%)を含めて総合的に判断する			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：今井健太郎
			担当形態：単独
科目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
①憲法が保障する基本的人権の尊重および立憲主義の基本的観念について理解し、その意義を説明できること。			
②現存する憲法問題に対して、憲法の基本的な知識を使って説得力ある私見を展開できること。			
授業の概要			
<p>「社会あるところに法あり」と言われるように、人が集まって社会が形成されれば、何らかのルール＝法規範が出来上がります。実際、日本にもさまざまな法律が存在しており、私たちはその法律を守らなくてはならないルールと認識して、日々生活しています（例：酒・タバコは二十歳から etc.）。憲法も法律の一つです。しかし、憲法は、国家権力が暴走して個人の権利や自由を侵害しないように権力の行使を制限する法規範であり、そこが私たち市民の行動を規制する他の法律と決定的に異なります。このように、憲法によって権力を縛る考え方を立憲主義（Constitutionalism）といいます。本講義では、この立憲主義の理解を念頭に、憲法の条文や実際の判例について学んでいきます。その中で、特に、憲法が規定する基本的人権の尊さと、ひいては私たちが憲法と立憲主義の観念を抱く意味について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。</p>			
授業計画			
第1回：この講義の概要説明			
第2回：憲法と国家－立憲主義とは何か－			
第3回：日本憲法史			
第4回：法の支配・裁判所・民主主義－違憲審査制の意義－			
第5回：基本的人権の観念			
第6回：法の下での平等			
第7回：思想・良心の自由			
第8回：信教の自由と政教分離			
第9回：表現の自由			
第10回：表現行為の刑事規制と人身の自由			
第11回：生存権			
第12回：教育を受ける権利			
第13回：選挙・憲法改正			
第14回：平和主義			
第15回：まとめ－私たちが「日本国憲法」を抱く意義－			
定期試験			
テキスト			
「教職課程のための憲法入門 第3版」2024年 西原博史・斎藤一久（編） 弘文堂			
「判例キーワード憲法」2020年 岡田順太・淡路智典・今井健太郎（編） 成文堂			
参考書・参考資料等			
「憲法 第8版」2023年 芦部信喜 岩波書店、「日本国憲法論 第2版」2020年 佐藤幸治 成文堂			
「憲法 第4版」2021年 樋口陽一 勁草書房、「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」2019年 有斐閣 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）、「うさぎのヤスヒコ 憲法と出会う：サル山共和国が守るみんなの権利」2014年 西原博史 太郎次郎社エディタス、「憲法主義 条文には書かれていない本質」2014年 内山奈月・南野森 PHP研究所、「ファーストステップ教養講座 ケースで学ぶ憲法ナビ 第2版」2021年 大林敬吾・小林祐紀（編） みらい、『映画で学ぶ憲法』2014年 志田陽子（編） 法律文化社、「映画で学ぶ憲法Ⅱ」2021年 志田陽子ほか（編） 法律文化社、「障害のある人が出会う人権問題」2023年 岡田順太・淡路智典・杉山有沙（編） 成文堂			
学生に対する評価			
定期試験（100％）で評価する。			

授業科目名： 憲法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：今井健太郎
			担当形態：単独
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①日本国憲法の総論および統治機構について正確な知識を習得すること</p> <p>②憲法の基本構造を理解することで、基本的人権の保障や権力分立が定められた意義について論証できること。</p> <p>③現存する憲法問題について、憲法学の知識を使って考察し、説得力ある私見を展開できること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>憲法とは、国家が暴走して市民の自由や権利を侵害しないように権力の行使を制限する法規範です。このように、憲法により権力を縛る考えを立憲主義（Constitutionalism）といいます。本講義では、この立憲主義の理解を念頭に、憲法の条文の意味や背景にある思想、そして実際の判例について学びます。</p> <p>憲法 I では、特に、憲法総論と権力分立の基本概念についてみていきます。その上で、我々が憲法と立憲主義の観念を抱く意味について考えてみたいと思います。</p> <p>※講義の理解を深めるためにも、憲法 II とセットで履修するのが望ましい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：この講義の概要説明</p> <p>第2回：憲法と国家</p> <p>第3回：法の支配と立憲主義の現代的展開</p> <p>第4回：日本憲法史</p> <p>第5回：平和主義</p> <p>第6回：国民主権と象徴天皇制</p> <p>第7回：代表民主制と選挙制度</p> <p>第8回：権力分立原理 / 政党</p> <p>第9回：国会－立法府の仕組みと権能－</p> <p>第10回：内閣－行政権と議院内閣制－</p> <p>第11回：財政 / 地方自治</p> <p>第12回：司法権と裁判所①－司法権の意義 / 司法権の独立－</p> <p>第13回：司法権と裁判所②－司法権の限界－ / 違憲審査制と憲法訴訟①－違憲審査制の意義－</p> <p>第14回：違憲審査制と憲法訴訟②－違憲審査の方法と違憲審査基準 / 判決の効力－</p> <p>第15回：憲法改正 / まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「ファーストステップ教養講座 ケースで学ぶ憲法ナビ 第2版」2021年 大林敬吾・小林祐紀（編）みらい</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「憲法 第8版」2023年 芦部信喜 岩波書店、「憲法学 I 憲法総論」1992年 有斐閣 芦部信喜、「日本国憲法 第2版」2020年 成文堂 佐藤幸治、「憲法 I」1998年 樋口陽一 青林書院、「憲法 第4版」2021年 樋口陽一 勁草書房、「憲法 第8版」2022年 長谷部恭男 新世社、「憲法 II 総論・統治」2020年 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗 日本評論社、「憲法判例百選 I・II 第7版」2019年 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）有斐閣、「判例キーポイント憲法」2020年 岡田順太・淡路智典・今井健太郎（編）成文堂</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（100％）で評価する。</p>			

授業科目名： 憲法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：今井健太郎 担当形態：単独
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①日本国憲法の基本的人権保障および人権に関連する主要判定についての正確な知識を習得すること。</p> <p>②憲法の基本構造を理解することで、人権の保障が定められた意義について論証できること。</p> <p>③現存する人権問題について、憲法学の知識を使って考察し、説得力ある私見を展開することで、問題解決のための道筋を探れるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>憲法とは、国家が暴走して市民の自由や権利を侵害しないように権力の行使を制限する法規範です。このように、憲法により権力を縛る考えを立憲主義（Constitutionalism）といいます。本講義では、この立憲主義の理解を念頭に、憲法の条文の意味や背景にある思想、そして実際の判例について学んでいきます。</p> <p>特に憲法Ⅱでは、憲法Ⅰで学んだ立憲主義の基本概念的知識を前提としながら、日本国憲法が定める基本的人権とその保障についてみていきます。その上で、我々が憲法と立憲主義の観念を抱く意味について考えてみたいと思います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：この講義の概要説明 / 基本的人権の観念</p> <p>第2回：人権の観念と享有主体</p> <p>第3回：人権の限界と違憲審査基準</p> <p>第4回：包括的基本権</p> <p>第5回：法の下での平等①—平等の意味／差別の種類—</p> <p>第6回：法の下での平等②—平等と違憲審査／平等の具体的内容・判例—</p> <p>第7回：思想・良心の自由</p> <p>第8回：信教の自由と政教分離</p> <p>第9回：表現の自由①—表現の自由の意義と違憲審査／表現の自由の限界—</p> <p>第10回：表現の自由②—集会の自由—</p> <p>第11回：経済的自由権—職業選択の自由 / 財産権—</p> <p>第12回：人身の自由と適正手続保障</p> <p>第13回：社会権総論 / 生存権</p> <p>第14回：教育を受ける権利 / 労働基本権</p> <p>第15回：総まとめ—憲法Ⅰ・Ⅱを通して / 私たちが「日本国憲法」を抱く意義—</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「ファーストステップ教養講座 ケースで学ぶ憲法ナビ 第2版」2021年 大林敬吾・小林祐紀（編）みらい</p> <p>「判例キーワード憲法」2020年 岡田順太・淡路智典・今井健太郎（編）成文堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「憲法 第8版」2023年 芦部信喜 岩波書店、「憲法学Ⅱ 人権総論」1994年 芦部信喜 有斐閣、「憲法学Ⅲ 人権各論（1）補訂版」1998年 芦部信喜 有斐閣、「日本国憲法論 第2版」2020年 佐藤幸治 成文堂、「憲法 第4版」2021年 樋口陽一 勁草書房、「憲法Ⅰ 基本権 第2版」2023年 渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗 日本評論社、「憲法 第8版」2022年 長谷部恭男 新世社、「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」2019年 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）有斐閣</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（100％）で評価する。</p>			

授業科目名： スポーツと現代社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：玉田理沙子
			担当形態：クラス分け
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツや運動などの身体活動の効果を理解する。 自身の生活の中でスポーツの効果がどのように影響できるかを考えることができる。 得られた情報をもとにスポーツと現代社会について考え、自身の考えを持つことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツや運動などの身体活動は、人間にさまざまな効果をもたらすと言われている。特にスポーツは人とのつながりを持つ機会として捉えることができる。スポーツを通じた人間関係を考えるためにコーチング学の考え方をを用い、私たちの生活とスポーツを関連付け、現代社会におけるスポーツ活動のあり方、スポーツの効果を日常生活にどのように反映するのかを考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、スポーツとコーチング 第2回：アスリートセンタードコーチング 第3回：セーフスポーツ 第4回：アスリートに導く結果 第5回：コーチの役割 第6回：コーチに求められる知識 第7回：コーチの主な機能 第8回：コーチの学習 第9回：コーチの幸福 第10回：コーチング哲学 第11回：演習活動①：4つのコーチングのアプローチ方法 第12回：演習活動②：GoodコーチとBadコーチについて意見交換 第13回：演習活動③：GoodコーチとBadコーチについて資料作成 第14回：演習活動④：GoodコーチとBadコーチについて発表・評価 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業内で紙媒体で資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>コーチング学会編「コーチング学への招待」2017年 大修館書店</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>まとめレポート（50%）、リアクションペーパー（30%）、授業態度（20%）を総合的に判断する。</p>			

授業科目名： スポーツ&エクササイズ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：玉田理沙子、 松江拓 担当形態：クラス分け
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツのルールを理解し、技術を習得・実践することができる。 健康の保持増進について理解を深め実践できる。 身体活動・グループ活動を通し、一人ひとりが責任を持って活動し、他者との協調性を学ぶ。			
授業の概要 現代における日常生活では身体を動かすことが少なくなっており、健康で豊かな生活をおこるために積極的に運動を行う必要性が高まっている。本授業では、運動実技を通し、基礎体力・運動能力の保持増進を目指し、生涯にわたって運動に親しむ資質能力を養うことを目的とする。また、体力測定を実施し自身の運動能力及び体力を把握・分析を行い、運動の効果を考える。バドミントン、卓球、バスケットボールの3種類をグループで実施し全て体験する。アイスブレイクでジャンプロープを実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、体づくり運動、アイスブレイク 第2回：体づくり運動、アイスブレイク 第3回：体力測定、レポートに関する説明 第4回：各種目の説明、グループ分け、熱中症について 第5回：第一種目：手さぐり期（基本動作の習得、ルールの理解） 第6回：第一種目：充実期（応用練習、簡易ゲーム） 第7回：第一種目：仕上げ期（ゲーム） 第8回：第二種目：手さぐり期（基本動作の習得、ルールの理解） 第9回：第二種目：充実期（応用練習、簡易ゲーム） 第10回：第二種目：仕上げ期（ゲーム） 第11回：第三種目：手さぐり期（基本動作の習得、ルールの理解） 第12回：第三種目：充実期（応用練習、簡易ゲーム） 第13回：第三種目：仕上げ期（ゲーム） 第14回：知識テスト（熱中症及び各球技種目のルールに関する知識の確認） 第15回：総まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 「大学体育—スポーツ学への招待—」2021年 関根正美・中里浩一・野井真吾・大石健二・鈴木一宏・小林正利（編） ナップ			
学生に対する評価 受講態度、知識・技能、授業内で実施されるテスト、課題レポート、リアクションペーパーを総合的に判断する。怪我などで運動ができない場合は事前に相談し、補助活動を行うこと。 授業態度（40%）、知識・技能（20%）、課題レポート（20%）、リアクションペーパー（20%）			

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：蒲地賢一郎 他 担当形態：クラス分け
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 日常的な英語を学び、英語でコミュニケーションをとることができる。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な英文や日常会話を理解し、実際に使う。 ・ 英語の発音、リズムや読解のポイントなどを学習する。 ・ ICTを利用したり、ペアやグループで意見を交換したり、多様な形態で英語を使い、英語力を高める。 			
授業計画 第1回：Introduction（はじめに），College Life（大学生活），ディスカッション 第2回：Future Plans / Jobs（将来の計画/仕事），ペアワーク・グループワーク 第3回：Part-Time Jobs and Otakatsu（アルバイトとオタ活），ペアワーク・グループワーク 第4回：Movies（映画），ペアワーク・グループワーク 第5回：Parties and Festivals（パーティとフェスティバル），ペアワーク・グループワーク 第6回：Friends（友達），ペアワーク・グループワーク 第7回：Study Abroad / World Englishes（留学/世界の英語）ペアワーク・グループワーク 第8回：Oral Interview 1 & Reflection（口頭インタビューと振り返り） 第9回：SNS / Fashion / Weather（SNS/ファッション/天気），ペアワーク・グループワーク 第10回：Cultures / Idols / Anime（文化/アイドル/アニメ），ペアワーク・グループワーク 第11回：Music（音楽），ペアワーク・グループワーク 第12回：Relationships（人間関係），ペアワーク・グループワーク 第13回：Traveling Overseas（海外旅行），ペアワーク・グループワーク 第14回：Reflection（反射），ペアワーク・グループワーク 第15回：Oral Interview 2（口頭インタビュー） 定期試験			
テキスト 「Activator Next:大学生の自信を促す英語コミュニケーション」2023年 塩澤正・Adam Martinnelli 著金星堂			
参考書・参考資料等 辞書			
学生に対する評価 定期試験60%、課題・受講態度40%			

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：蒲地賢一郎 他 担当形態：クラス分け
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 日常的な英語を学び、英語でコミュニケーションをとることができる。			
授業の概要 基本的な英文や日常会話を理解し、実際に使う。 ICTや生成AIを活用しながら、英語を使い、実践的な英語力を高める。			
授業計画 第1回：Introduction（導入），ペアワーク・グループワーク 第2回：College Life（大学生活），Word Processor（ワープロ），ペアワーク・グループワーク 第3回：Future Plans（今後の予定），Online Submission（オンライン提出），ペアワーク・グループワーク 第4回：Part-Time Jobs（アルバイト），Translation App（翻訳アプリ），ペアワーク・グループワーク 第5回：Movies（映画），Generative AI（生成AI），ペアワーク・グループワーク 第6回：Parties and Festivals（パーティとフェスティバル），ペアワーク・グループワーク 第7回：Friends（友達），ペアワーク・グループワーク 第8回：Reflection 1（反省），ペアワーク・グループワーク 第9回：Study Abroad（留学），Text-to-Speech App（テキスト読み上げアプリ），ペアワーク・グループワーク 第10回：SNS，Speech-to-Text App（音声テキスト変換アプリ），ペアワーク・グループワーク 第11回：Cultures（文化），ペアワーク・グループワーク 第12回：Music（音楽），ペアワーク・グループワーク 第13回：Reflection 2（反省），ペアワーク・グループワーク 第14回：Oral Presentation 1（口頭発表），プレゼンテーション 第15回：Oral Presentation 2（口頭発表），プレゼンテーション			
定期試験			
テキスト オンラインまたはプリントで教材を配布する。			
参考書・参考資料等 辞書			
学生に対する評価 定期試験50%、課題・受講態度50%			

授業科目名： ドイツ語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：安東清 他 担当形態：クラス分け
科目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. ドイツ語の発音原則を理解し、単語や文章をきちんと音読できる。</p> <p>2. 動詞の現在人称変化と語順の原則を理解し、重要な単語を用いた文を作ることができる。</p> <p>3. ドイツ語圏における生活や社会・文化について、理解を深める。</p>			
授業の概要			
<p>文字と綴り・発音の原則を説明し、自然なドイツ語の発音ができるまで練習を重ねます。同時に、文法を学ぶ上で最も基本的な事項である「動詞の現在人称変化」と「文の語順」をとり扱います。</p> <p>並行して、ドイツ語圏の人々の暮らしや歴史・文化についての映像や資料を紹介します。</p>			
授業計画			
<p>第1回：導入：ヨーロッパ、EU加盟国、ドイツ語圏の国々の紹介 ドイツ語のアルファベット</p> <p>第2回：規則動詞の現在人称変化(主語が一人称単数ichの場合) 平叙文の語順</p> <p>第3回：規則動詞の現在人称変化(主語が一人称単数ichの場合) 疑問文の語順</p> <p>第4回：規則動詞の現在人称変化(主語が二人称単数Sieの場合) 平叙文の語順</p> <p>第5回：規則動詞の現在人称変化(主語が二人称単数Sieの場合) 疑問文の語順</p> <p>第6回：規則動詞の現在人称変化(主語が二人称単数duの場合) 平叙文の語順</p> <p>第7回：規則動詞の現在人称変化(主語が二人称単数duの場合) 疑問文の語順</p> <p>第8回：規則動詞の現在人称変化(主語が三人称単数er, sie, esの場合) 平叙文の語順</p> <p>第9回：規則動詞の現在人称変化(主語が三人称単数er, sie, esの場合) 疑問文の語順</p> <p>第10回：規則変化動詞の現在人称変化(主語が一人称複数wirの場合) 平叙文の語順</p> <p>第11回：規則変化動詞の現在人称変化(主語が二人称複数Sieの場合) Sieに対する命令文の語順</p> <p>第12回：規則変化動詞の現在人称変化(主語が二人称複数ihrの場合) duに対する命令文の語順</p> <p>第13回：規則変化動詞の現在人称変化(主語が三人称複数sieの場合) ihrに対する命令文の語順</p> <p>第14回：不規則変化動詞seinの現在人称変化 所有冠詞の語尾変化 wirに対する勧誘文の語順</p> <p>第15回：不規則変化動詞seinの現在人称変化 所有冠詞の語尾変化</p>			
定期試験			
<p>※上記授業内容に加えて、第2回から第14回までの授業では、ドイツ語の綴りと発音についての学習とごく簡単な会話練習、およびドイツ語圏の社会・文化や日常生活に関する情報提供も実施する。</p>			
テキスト			
授業専用で作成した教材を授業時に配布する。			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
<p>授業期間の学習活動に対する評価（授業時間内の学習への取り組みの状況、事前学習と事後学習の状況、指定された課題の提出状況を評価対象とする）が40%、中間試験と期末試験の成績による評価が60%</p>			

授業科目名： ドイツ語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：安東清 他 担当形態：クラス分け
科目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 1. さまざまな冠詞の形を言うことができる。 2. 名詞の複数形の作り方を理解し、主要な名詞の複数形を言えるようになる。 3. 主要な動詞の現在人称変化を言うことができる			
授業の概要 ドイツ語Ⅱでは前期開講のドイツ語Ⅰの授業を継続します。 この授業では、前期で学習した「動詞の現在人称変化」の学習をさらに進め、名詞を修飾するさまざまな「冠詞」についても学習し、前期に引き続き初歩の会話練習も実施します。 前期と同様に、ドイツ語圏の人々の暮らしや歴史・文化についての映像や資料も紹介します。			
授業計画 第1回：ドイツ語Ⅰの復習 不規則変化動詞werdenの現在人称変化 所有冠詞の格変化 第2回：不規則変化動詞werdenの現在人称変化 所有冠詞の格変化 第3回：1格主語と4格目的語 不定冠詞の格変化 第4回：不規則変化動詞habenの現在人称変化 不定冠詞の格変化 第5回：幹母音変化動詞の現在人称変化(a→ä 型の動詞について) 不定冠詞の格変化 第6回：幹母音変化動詞の現在人称変化(a→ä 型の動詞について) 定冠詞の格変化 第7回：幹母音変化動詞の現在人称変化(e→i 型の動詞について) 定冠詞の格変化 第8回：幹母音変化動詞の現在人称変化(e→i 型の動詞について) 冠詞まとめ 第9回：幹母音変化動詞の現在人称変化(e→ie 型の動詞について) 第10回：幹母音変化動詞の現在人称変化(e→ie 型の動詞について) 人称代名詞の格変化 第11回：話法の助動詞のある文の構 人称代名詞の格変化 第12回：話法の助動詞 könnenの現在人称変化 人称代名詞の格変化 第13回：話法の助動詞 wollenの現在人称変化 人称代名詞の格変化 第14回：話法の助動詞 möchteの現在人称変化 人称代名詞の格変化 第15回：話法の助動詞 müssenの現在人称変化 定期試験 ※上記授業内容に加えて、第2回から第14回までの授業では、ドイツ語の綴りと発音についての学習とごく簡単な会話練習、およびドイツ語圏の社会・文化や日常生活に関する情報提供も実施する。			
テキスト 授業専用で作成した教材を授業時に配布する。			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業期間の学習活動に対する評価（授業時間内の学習への取り組みの状況、事前学習と事後学習の状況、指定された課題の提出状況、小テストを評価対象とする）が40%、期末試験の成績による評価が60%			

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：飯田伸二
			担当形態：単独
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>初歩的なフランス語文法の学習を通じ、本講義は以下の目標に到達することを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の単語を音読できるようになる。 2. 基礎的なフランス語の文章を音読できる。 3. フランス語の基本動詞の活用が言える。 4. フランス語の基本的な文法を理解し、説明できる。 5. フランス語で自己紹介が出来る。 			
<p>授業の概要</p> <p>基本的な文法事項を学びながら、フランス語の基礎的かつ体系的な理解を図ります。同時に、フランス語の初歩的な運用能力の修得をめざします。</p> <p>この講義に真剣に取り組めば、「初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる」（フランス語検定5級、大学の半年間の学習に相当）ようになります。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、自分・相手の名前、国籍、出身地、0～10の数字（その1：挨拶を中心に）</p> <p>第2回：自分・相手の名前、国籍、出身地、0～10の数字（その2：主語人称代名詞を中心に）</p> <p>第3回：自分・相手の名前、国籍、出身地、0～10の数字（その3：人称代名詞を中心に）</p> <p>第4回：国籍、住んでいるところ、11～60の数字（その1：動詞 habiter、 parlerを中心に）</p> <p>第5回：国籍、住んでいるところ、11～60の数字（その2：疑問文の種類・作り方を中心に）</p> <p>第6回：値段、年齢（その1：動詞 avoir）</p> <p>第7回：値段、年齢（その2：疑問形容詞、疑問代名詞の用法を中心に）</p> <p>第8回：職業、言語、61～1000の数字、電話番号（その1：名詞の女性形を中心に）</p> <p>第9回：職業、言語、61～1000の数字、電話番号（その2：数字の練習を中心に）</p> <p>第10回：好き嫌い、1001～10000の数字、年号（その1：動詞 aimerを中心に、定冠詞を中心に）</p> <p>第11回：好き嫌い、1001～10000の数字、年号（その2：可算名詞、不可算名詞を中心に）</p> <p>第12回：好き嫌い、1001～10000の数字、年号（その3：否定文の作り方を中心に）</p> <p>第13回：文法のまとめ（その1：自己紹介を中心に）</p> <p>第14回：文法のまとめ（その2：他己紹介を中心に）</p> <p>第15回：まとめ+復習練習問題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「フランス語2020 (CD付)」2020年 中川努・中井珠子・曾我祐典 白水社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「プチ・ロワイヤル仏和辞典」（第4版）2010年 倉方秀憲・東郷雄二・春木仁孝・大木充 旺文社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（100%）</p>			

授業科目名： フランス語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：飯田伸二
			担当形態：単独
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>フランス語文法を学ぶことで、本講義は以下の目標に到達することを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の文章を音読できる。 2. 基礎的なフランス語の文章を音読できる。 3. フランス語の基本的な文法を理解し、説明できる。 4. フランス語の基本動詞の活用が言える。 5. フランス語でより詳しい（前期と比較して）自己紹介が出来る。 			
<p>授業の概要</p> <p>フランス語文法を体系的に学ぶことによってフランス語の基礎的な理解を図ります。同時にフランス語の初歩的な運用能力の修得をめざします。</p> <p>この講義に真剣に取り組めば、「初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる」（フランス語検定5～4級、大学の1年間の学習に相当）ようになります。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：前期の振り返り、月曜から日曜まで</p> <p>第2回：月曜から日曜まで（その1：曜日、規則性に関連する表現を中心に）</p> <p>第3回：月曜から日曜まで（その2：不規則動詞 aller、venirを中心に）</p> <p>第4回：起きてから寝るまで（その1：代名動詞の活用を中心に）</p> <p>第5回：起きてから寝るまで（その2：代名動詞の用法を中心に）</p> <p>第6回：起きてから寝るまで（その3：時刻、時間に関する表現を中心に）</p> <p>第7回：すること、しないこと（その1：勧誘表現、場所を表す表現を中心に）</p> <p>第8回：すること、しないこと（その2：不規則動詞vouloir、pouvoirを中心に）</p> <p>第9回：すること、しないこと（その3：天気、気候を表す非人称構文を中心に）</p> <p>第10回：すでにしたこと、週末にしたこと（その1：複合過去とは）</p> <p>第11回：すでにしたこと、週末にしたこと（その2：助動詞 avoirを使う複合過去）</p> <p>第12回：すでにしたこと、週末にしたこと（その3：助動詞 êtreを使う複合過去）</p> <p>第13回：文法のまとめ（その1：1日の予定、1週間の予定を語る）</p> <p>第14回：文法のまとめ（その2：昨日、週末にしたことを語る）</p> <p>第15回：まとめ+復習練習問題</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「フランス語2020（CD付）」2020年 中川努・中井珠子・曾我祐典 白水社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「プチ・ロワイヤル仏和辞典」（第4版）2010年 倉方秀憲・東郷雄二・春木仁孝・大木充 旺文社</p> <p>その他適宜指示します。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（100%）</p>			

授業科目名： 中国語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：靳春雨 他 担当形態：クラス分け
科目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中国語の発音に慣れる。 「ピンイン」に沿って、「声調」を意識しながら、正しく発音できるようになること。 簡単な自己紹介や日常会話ができるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は中国語を初めて学ぶ人が対象です。はじめに中国語を学ぶ上で一番大切な「発音」をしっかりと学びます。続いて基本的な会話や文法を学んでいきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中国語とは 発音1 声調と母音 第2回：発音2 有気音 無気音 第3回：発音3 そり舌音 鼻母音 第4回：発音4 発音の組み合わせ 発音の復習 第5回：第1課 「こんにちは」 あいさつことば 名前の言い方 第6回：第1課 「こんにちは」 「是」(～である) 人称代名詞 第7回：第2課 「学校」 疑問詞の使い方 「あなたは？」の言い方 第8回：第2課 「学校」 「的」(～の) の使い方 自己紹介の練習 第9回：第3課 「新宿」 動詞述語文 指示代名詞(ここ・あそこ) 第10回：第3課 「新宿」 連動文 動詞を使った文のまとめ 第11回：第4課 「カメラを買う」 助動詞「想」(～したい) 反復疑問文 第12回：第4課 「カメラを買う」 形容詞述語文 指示代名詞(これ・あれ) 第13回：第5課 「家族を語る」 「有」(持っている・いる・ある) いくつとどれくらい 第14回：第5課 「家族を語る」 年齢の言い方 比較の言い方 第15回：総復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「日中いぶこみ広場(簡明版)」2014年 相原茂等著 朝日出版社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「はじめての中国語学習辞典」2002年 相原茂 朝日出版社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験70%、小課題20%、受講態度10%</p>			

授業科目名： 中国語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：靳春雨 他 担当形態：クラス分け
科目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中国語の発音を定着させるとともに、基本的文法事項を理解して、簡単な内容を中国語で表現できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「中国語Ⅰ」を履修した人が対象です。前期に引き続いて発音練習にしっかり取り組み、既習の文法事項を定着させながら、新しい文法・表現を学んでいきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：前期の復習 第6課 「富士山」 「～が好きだ」</p> <p>第2回：第6課 「富士山」 経験「～したことがある」の言い方</p> <p>第3回：第6課 「富士山」 助動詞「要」の使い方</p> <p>第4回：第7課 「喫茶店」 年月日・曜日・時刻の言い方</p> <p>第5回：第7課 「喫茶店」 文末の「了」</p> <p>第6回：第7課 「喫茶店」 前置詞「在」 「～で…する」時点の言い方の復習</p> <p>第7回：第8課 「街」 「～から…する」・「～へ…する」の言い方</p> <p>第8回：第8課 「街」 動詞につく「了」 量詞</p> <p>第9回：第8課 「街」 時間量の言い方</p> <p>第10回：第9課 「京都」 動詞「在」（～は…にいる・ある）方位詞</p> <p>第11回：第9課 「京都」 進行「～しているところだ」の言い方</p> <p>第12回：第9課 「京都」 「是～的」構文</p> <p>第13回：第10課 「寿司」 主述述語文</p> <p>第14回：第10課 「寿司」 助動詞「能」の使い方</p> <p>第15回：第10課 「寿司」 結果補語</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>相原茂等著「日中いぶこみ広場（簡明版）」2014年 相原茂等著 朝日出版社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「はじめての中国語学習辞典」2002年 相原茂 朝日出版社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験70%、小課題20%、受講態度10%</p>			

授業科目名： 韓国語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：入佐信宏 他
			担当形態：クラス分け
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 韓国語の文字と発音を正確に習得する。 (2) 自己紹介ができる。 (3) プレゼントを贈ったり、受け取ったりする時の会話ができる。 (4) 出身地について尋ねたり、答えたりすることができる。 (5) 家族やペットについて尋ねたり、答えたりすることができる。 (6) 持ち物や友人について尋ねたり、答えたりすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は韓国語を初めて学習する人が対象。韓国語の文字（ハングル）と発音から学ぶ。授業は、①目標会話のあらすじの確認⇒②単語と表現の学習⇒③本文の聞き取り⇒④文法と表現の学習⇒⑤発音練習⇒⑥翻訳練習⇒⑦会話練習の順で行う。会話練習はグループワークで行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：韓国語の文字と発音（母音と母音記号、ヤ行音と記号） 第2回：韓国語の文字と発音（子音と子音記号） 第3回：韓国語の文字と発音（濃音と記号、ワ行音と記号、二重母音と記号） 第4回：韓国語の文字と発音（日本語のハングル表記、子音で終わる音節と記号） 第5回：第1課 私はイユジンです。（あいさつと自己紹介） 第6回：第1課 私はイユジンです。（コミュニケーション活動） 第7回：第2課 これプレゼントです。（現場の物を指し示す） 第8回：第2課 これプレゼントです。（コミュニケーション活動） 第9回：第3課 どの出身ですか。（場所を尋ねる） 第10回：第3課 どの出身ですか。（コミュニケーション活動） 第11回：第4課 この人は誰ですか。（誰であるかを尋ねる、家族の呼び名） 第12回：第4課 この人は誰ですか。（コミュニケーション活動） 第13回：第5課 ソウルに韓国人の友達がいるんです。（所有や存在を表す） 第14回：第5課 ソウルに韓国人の友達がいるんです。（コミュニケーション活動） 第15回：総まとめ 定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「これで話せる韓国語STEP1」2015年 入佐信宏・金孝珍 白帝社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業の中で必要に応じて紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>受講態度(10%)、小テスト4回(60%)、定期試験(30%)で評価する。</p>			

授業科目名： 韓国語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：入佐信宏 他
			担当形態：クラス分け
科 目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)居場所を尋ねたり、表したりすることができる。番号・月日等を表現できる。 (2)習慣を尋ねたり、表したりすることができる。 (3)予定を尋ねたり、表したりすることができる。 (4)個数、年齢、時間等を表現できる。 (5)週末にやったことについて尋ねたり、表したりすることができる。 (6)まだやっていないことについて表現できる。電話番号を表現できる。			
授業の概要 この授業は「韓国語Ⅰ」の履修者または韓国語を3ヶ月程度学習した人が対象。授業は、①目標会話のあらすじの確認⇒②単語と表現の学習⇒③本文の聞き取り⇒④文法と表現の学習⇒⑤発音練習⇒⑥翻訳練習⇒⑦会話練習の順で行う。会話練習はグループワークで行う。			
授業計画 第1回：第6課 私は図書館にいます。(漢語の数詞) 第2回：第6課 私は図書館にいます。(コミュニケーション活動) 第3回：第7課 普通休みの日は何しますか。(動詞のへヨ体) 第4回：第7課 普通休みの日は何しますか。(助詞) 第5回：第7課 普通休みの日は何しますか。(コミュニケーション活動) 第6回：第8課 今週の土曜日に何しますか。(動詞のへヨ体の4つの機能) 第7回：第8課 今週の土曜日に何しますか。(動詞の否定形) 第8回：第8課 今週の土曜日に何しますか。(コミュニケーション活動) 第9回：第9課 映画は何時に始まりますか。(固有語の数詞) 第10回：第9課 映画は何時に始まりますか。(時間・時刻) 第11回：第9課 映画は何時に始まりますか。(コミュニケーション活動) 第12回：第10課 週末は何しましたか。(動詞の過去形) 第13回：第10課 週末は何しましたか。(コミュニケーション活動) 第14回：第11課 電話番号は何番ですか。(動詞の過去形<否定>) 第15回：第11課 電話番号は何番ですか。(コミュニケーション活動)			
定期試験 			
テキスト 「これで話せる韓国語STEP1」2015年 入佐信宏・金孝珍 白帝社			
参考書・参考資料等 授業の中で必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 受講態度(10%)、小テスト4回(60%)、定期試験(30%)で評価する。			

授業科目名： 情報技術演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野隆士、白尾克己 担当形態：クラス分け
科目	66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの概念と基本的な操作ができるようになる。 ・電子メールのしくみと基本的な操作ができるようになる。 ・Webブラウザを使った情報検索、収集ができるようになる。 ・ICT機器を用いて、取得した情報の基本的な分析ができるようになる。 ・著作権や情報セキュリティについて理解し、情報モラルに沿ってデータを活用できるようになる。 ・ネット上のその他のサービスを利活用できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>大学4年間、卒業後に必要とされるコンピュータの基本操作と、インターネットの利活用について説明する。学内の情報基盤、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアに関する基礎的事項を扱う。これらICT機器の操作やソフトウェアの利用、Webなどの利用を通じて、情報の収集整理法や、今後の社会に必要とされるデータ分析・活用能力を育成する。情報の取り扱いにおいては、著作権や情報セキュリティ、情報モラルに沿って活用できるような技能を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義についての紹介、基本の用語と操作、Moodleログイン 第2回：かな漢字変換と文字入力、ワードプロセッサの基本の操作1(文字入力、文字装飾、様式) 第3回：書類の保存と読み込み、ファイル管理 第4回：WWWとインターネット(インターネットの仕組みと各種サービス) 第5回：情報の検索1(キーワード検索、AND/OR/NOT検索、フレーズ検索、画像検索) 第6回：情報の検索2(地図、動画、ニュース、ドメイン指定検索)、検索結果の管理(整理保存) 第7回：Moodle、図書課システム等の学内の研究や学習環境向けのシステムの紹介と操作 第8回：ワードプロセッサの基本操作2(段落、箇条書き、スタイル、目次、索引)、情報の加工 第9回：電子メールの基本操作(ログイン、送信、受信、返信、アドレス帳) 第10回：電子メールの応用操作(同報送信、書類の添付、書庫の作成と圧縮、グループアドレスとML) 第11回：表計算ソフトの基本操作1(データ入力、オートフィル、合計/平均/個数の関数)、情報の蓄積 第12回：表計算ソフトの基本操作2(グラフ作成、フィルタ、ピボットテーブル)、情報の加工/分析 第13回：プレゼンテーションソフトの基本操作1(スライド作成、デザイン変更、発表)、情報の発信 第14回：プレゼンテーションソフトの基本操作2(画面切替、ノート機能、マスター変更)、情報の発信 第15回：情報セキュリティと情報倫理(情報モラル)、講義の総まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜ハンドアウトを利用すると共に、年度に応じた教科書を提示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>参考文献は適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。</p>			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野浪俊子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「教育とは何か」という基本的概念について、歴史や思想の諸学説に基づき多様な視座から概観し、教育について理解する。</p> <p>①教育の基本的概念となる教育成立に必要な諸要因とそれらの相互関係について理解する。</p> <p>②教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、教育及び学校の変遷を理解する。</p> <p>③教育の多様な思想に基づき、現代の教育及び学校教育の理念との関わりを理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、「教育とは何か」という基本的概念について、教育の歴史や思想の諸学説を概観し学ぶことにより、これまでの教育及び学校の営みが、どのように捉えられ変遷してきたのかということを多面的に考察し、教育について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の理念と本質</p> <p>第2回：教育の意義と目的（目標）：「教」と「育」を対比した「マイクロ・ディベート」</p> <p>第3回：子ども観・家庭・社会の変遷と子どもの学習権</p> <p>第4回：学校教育制度（義務教育諸学校）の成立：解釈に基づく「LTD（Learning Through Discussion）」</p> <p>第5回：日本教育の思想と歴史①（明治「学制」の教育思想）</p> <p>第6回：日本教育の思想と歴史②（「教育勅語」の教育思想）</p> <p>第7回：日本教育の思想と歴史③（大正自由教育の教育思想）</p> <p>第8回：日本教育の思想と歴史④（第二次世界大戦後の教育改革の教育思想）</p> <p>第9回：日本教育の思想と歴史⑤（改正教育基本法の教育思想）</p> <p>第10回：西洋教育の思想と歴史①（「子どもの発見者」ルソー）</p> <p>第11回：西洋教育の思想と歴史②（「民衆教育の父」ペスタロッチ）</p> <p>第12回：西洋教育の思想と歴史③（「幼児教育の祖」フレーベル）</p> <p>第13回：西洋教育の思想と歴史④（「障がい児教育の祖」モンテッソーリ）</p> <p>第14回：西洋教育の思想と歴史⑤（「児童中心主義・新教育の祖」デューイ）</p> <p>第15回：現代日本の教育改革と課題：「振り返りシート」を用いた「ピア・ラーニング」</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「教育の本質と教師の学び」2019年 高橋浩、金田健司 編著 学文社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「教育原理」2020年 汐見稔幸 他編著 ミネルヴァ書房</p> <p>「最新教育原理（第2班）」2020年 安彦忠彦 他編著 勁草書房</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（100％）</p>			

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新納雅樹 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 本科目は、学校教育を担う教職の意義、求められる教師像と教員養成の変遷、教職と教育法規、教師の職務内容、教育実習の意義と心得、現代教育における様々な課題・解決の方法等について学び、学校教育において求められる教師の資質について理解する。 (1) 公教育の目的、教員の存在意識、教職の職業的特徴を理解する。 (2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や基礎的な資質能力を理解する。 (3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務及び身分保障を理解する。 (4) 学校が内外の専門家等と連携・分担し、チーム学校として対応する必要性について理解する。			
授業の概要 毎時間手作りのプリント(冊子)を準備する。学校現場での経験を生かして、教職全般についての講義等を行い学生自らが考えて解決に向けて行動するよう、適宜グループ活動や意見発表を通して、教育の意義及び教育の役割や職務内容について学ぶ。			
授業計画 第1回：Ⅰ 教職の意義(教師としての使命感、教師とは) 第2回：求められる教師像(含むグループ活動) 第3回：Ⅱ 教育史(戦前の教員養成の変遷) 第4回：教育史(戦後の教員養成の変遷) 第5回：新しい教育基本法(改正前と改正後の比較)(含むグループ活動) 第6回：教育法規の種類、名称、内容等 第7回：Ⅲ 教員の職務内容 教員の身分 第8回：教員の職務内容 服務規律(含むグループ活動) 第9回：教員の職務内容 学校の組織体制と職務 第10回：教員の職務内容 学級担任の1日の業務(含むグループ活動) 第11回：教員の職務内容 学級担任の1年の業務(含むグループ活動) 第12回：Ⅳ チーム学校として様々な課題への取組(いじめ、不登校)(含むグループ活動) 第13回：チーム学校として様々な課題への取組(SNS、スマホ等)(含むグループ活動) 第14回：チーム学校として様々な課題への取組(体罰、保健室登校)(含むグループ活動) 第15回：Ⅴ 教育実習に向けて(含むグループ活動)			
定期試験 テキスト 教科書は特に指定しない。毎時間講義中に配付するプリント(冊子)を使用する。			
参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編」文部科学省 「小学校学習指導要領」2008年 文部科学省 東京書籍 「中学校学習指導要領」2008年 文部科学省 東京書籍 「高等学校学習指導要領」2009年 文部科学省 東京書籍			
学生に対する評価 定期試験(60%)、課題提出(20%)、受講態度(20%)により総合的に判断する。			

授業科目名： 教育行政概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口康明
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の教育法制について理解する。 ・上記に根ざした教育委員会制度について理解する。 ・学校保健、学校安全と安全教育について理解する。 			
授業の概要			
<p>近代公教育は「公権力によって管理運営される教育」と定義され、帰結が「学校制度」である。この制度は、「国民」のためとしつつ、「国家」それ自体にとっての事業である。近代国家を成立させ、産業を発展させ、軍備を増強し、国力を一層高めていくためにも、国民全体の「力」の向上は不可欠となる。こうした教育の目的を支えるシステムである教育行政制度がどのように変遷し学校教育を形成させてきたのか、史的視点を含めて考察する。日本の教育行政並びに、諸外国の教育行政制度も含めて検証しつつすすめる。</p>			
授業計画			
第1回：近代公教育とは何か			
第2回：近年の教育政策の動向と教育課題			
第3回：教育行政とは何か			
第4回：日本の教育制度と歴史			
第5回：明治期の教育制度の成立と展開			
第6回：戦後の教育改革			
第7回：公教育の原理と理念（日本国憲法と教育基本法）			
第8回：教育基本法及び教育三法改正の意義			
第9回：学校教育法と近年の教育改革			
第10回：教育公務員特例法及び教育職員免許法と近年の教育改革			
第11回：地方教育行政の組織及び運営に関する法律と近年の教育改革			
第12回：児童生徒を取り巻く制度と環境（学校保健安全法、生徒指導等）			
第13回：学校文化と組織マネジメント（学校と地域との連携を含む）			
第14回：学校安全と安全教育（緊急事態時の学校の役割、AED活用実技を含む）			
第15回：学校の危機管理（危機の多様化と危機意識）			
定期試験			
テキスト			
特に定めない。毎回、印刷資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
教育小六法（2025年版）石井拓児（他）学陽書房			
教育法規便覧（2025年版）窪田眞二（他著）学陽書房			
学生に対する評価			
定期試験（80%）、授業中の小レポート（20%）			

授業科目名： 教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川津 優、野元明日香 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論を踏まえ、各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する。 2. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、主体的な学習を支える動機付け・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する。 3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育と呼ばれる事象の中から、心理学に関連した問題を取り上げる。従来から心理学の主な関連領域としては発達、学習、適応、評価などが研究されてきたが、この授業では発達と学習の領域を中心に講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（教育心理学とは、発達とは） 第2回：乳幼児期の発達過程 第3回：児童期の発達過程 第4回：思春期・青年期の発達過程 第5回：その他の発達の变化（道徳性の発達、向社会性の発達） 第6回：学習とは（学習理論、行動分析） 第7回：学習の動機づけ 第8回：個人差に応じた指導（適正処遇交互作用、学習到達度・認知スタイル・能力の違いに応じた指導） 第9回：学習の方法とその形態 第10回：学級運営と教員の指導行動 第11回：教育評価の目的と方法 第12回：発達面の障害と教育①（自閉症スペクトラム障害と学習障害について） 第13回：発達面の障害と教育②（注意欠如・多動性障害と発達障害への理解と支援について） 第14回：学校現場における諸問題①（不登校へのアセスメントと支援について） 第15回：学校現場における諸問題②（いじめ・暴力行為・非行について）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「教育心理学の理論と実際 発達と学習の効果的支援をめざして」2019年 河村茂雄・武蔵由佳 編著 図書文化社</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜提示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）</p>			

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：木下昌也 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程		
授業のテーマ及び到達目標 発達現象の要因と具体的な子どもの心身の発達、各時期の学習準備性について理解する。			
授業の概要 前半は、発達の要因としての遺伝と環境の影響（成熟と学習）、および初期経験としての親子関係について概説し、後半は具体的な子ども（障がい児を含む）の心身の発達を概観していく。また授業の進行度によっては子ども期を振り返るグループワークをおこなうこともある。			
授業計画 第1回：発達とは / 発達の要因 第2回：パーソナリティの遺伝 第3回：初期経験の重要性 第4回：初期経験としての親子関係①：愛着と人間らしさの基盤 第5回：初期経験としての親子関係②：愛着行動の発達と個人差 第6回：ヒトの発達の特徴 第7回：身体発達の様相と心理学における発達の時期区分 / 胎生期 第8回：新生児期について 第9回：認知発達（ピアジェ理論から）①：乳幼児期の知的発達と遊び、言語発達との関連 第10回：認知発達（ピアジェ理論他）②：幼児期、児童期から青年期への学びの変容と指導法 第11回：行動・社会性について①：幼児期の行動発達と社会的認知 第12回：行動・社会性について②：児童期・青年期の人間関係、学習動機づけ 第13回：行動・社会性について③：青年期の身体・行動発達と社会化 第14回：多様な子どもの学習活動を支える適応支援：特別支援教育と応用行動分析 第15回：生涯発達心理学の視点：成人期・高齢期研究と方法論 定期試験			
テキスト 教科書は使用しない。講義中資料を配付する。			
参考書・参考資料等 「発達心理学への招待」1991年 矢野喜夫・落合正行 サイエンス社 「行動誌入門」1997年 中谷勝哉 ナカニシヤ出版 「発達行動学の視座」2002年 根ヶ山光一 金子書房 「学習指導要領」2002年 文部科学省 金子書房			
学生に対する評価 定期試験100%			

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野浪俊子、前野明子 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性および心身の発達について理解する。</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法・指導計画について理解する。</p> <p>(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応について理解する。</p>			
授業の概要			
<p>発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が、実感・達成感を持ちながら、学び・生きる力を身に付けていくことができるように、学習上又は生活上の困難を理解し個別の教育的ニーズに対して、教員相互や関係機関が連携しながら組織的に対応していくために必要な基礎的・基本的な知識と支援方法を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：インクルーシブ教育のシステムを含めた特別支援教育・支援方法について（担当：野浪俊子）			
第2回：「発達障害者支援法」「特殊から特別支援」への転換について（担当：前野明子）			
第3回：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別支援を必要としている幼児、児童及び生徒の心身の発達心理的特性および学習の過程について（担当：前野明子）			
第4回：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について（担当：前野明子）			
第5回：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について（担当：前野明子）			
第6回：特別支援教育の教育課程と「自立活動」について（担当：野浪俊子）			
第7回：特別支援教育の教育課程と「通級指導」について（担当：野浪俊子）			
第8回：特別支援教育における個別の指導計画と教育支援計画について（知・視・聴・肢・病）（担当：前野明子）			
第9回：特別支援教育における個別の指導計画と教育支援計画について（発達障害・重複障害）（担当：前野明子）			
第10回：特別支援教育コーディネーターや関係機関・家庭との連携支援体制について（担当：野浪俊子）			
第11回：母国語や貧困の問題などにより特別の教育ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性について（担当：前野明子）			
第12回：情緒発達障害（不登校、行為障害などの非社会的・反社会的行動を有する）で特別支援を必要としている幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習過程について（担当：前野明子）			
第13回：情緒発達障害（非社会・反社会的行動を有する）で特別支援を必要としている幼児、児童及び生徒に対する支援方法について（担当：前野明子）			
第14回：虐待を受けた幼児、児童、生徒の心身の発達、心理的特性及び学習過程と社会的養護の心理・社会的支援の基本的知識について（担当：前野明子）			
第15回：発達障害・情緒発達障害・被虐待児の精神医学的基礎知識とその療育や治療について（担当：前野明子）			
定期試験			
テキスト			
「教職を目指す人のための特別支援教育－基礎から学べる子どもの理解と支援－」2021年 杉中拓央 福村出版 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」平成30年3月 文部科学省			
参考書・参考資料等			
「子どものための精神医学」2017年 滝川一廣 医学書院 「新版 キーワードブック 特別支援教育」2020年 玉村公二彦 他編著 クリエイツかもがわ出版			
学生に対する評価			
定期試験（80%）、適宜に課すレポート（20%）			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野浪俊子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育課程の編成基準や原理について理解し、学校の教育実践に活かすことのできるカリキュラム・マネジメントについての資質能力を養う。 ①学校教育における教育課程の意義や役割・機能について理解する。 ②教育課程の編成基準や原理、『学習指導要領』との関わりについて理解する。 ③学校の教育実践に活かすことのできるカリキュラム・マネジメントについて理解する。			
授業の概要 本科目は『学習指導要領』を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成方法を解説するとともに、各学校の教育目標実現に向けて児童・生徒や地域の実態に合わせてカリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。			
授業計画 第1回：教育課程の意義と役割（教育課程とは何か） 第2回：教育課程の編成基準 第3回：教育課程の編成と「学習指導要領」の変遷①（1947年、1951年、1958年） 第4回：教育課程の編成と「学習指導要領」の変遷②（1968年、1977年、1989年） 第5回：教育課程の編成と「学習指導要領」の変遷③（1998年、2008年、2020年） 第6回：教育課程における「特別の教科道徳」の教育的意義 第7回：教育課程における「特別活動」「総合的な学習の時間」「部活動」の教育的意義 第8回：教育課程の編成方法と類型（教科型カリキュラム・経験型カリキュラム） 第9回：教育課程と学習指導の原理 第10回：教育課程と学習指導の諸類型：教育課程の諸類型に基づく「マイクロ・ディベート」 第11回：教育課程と学習指導計画：教育課程と学習指導を巡る「LTD（Learning Through Discussion）」 第12回：教育課程サイクルとしてのカリキュラム・マネジメントと「PDCA」サイクル 第13回：『学習指導要領』に基づくカリキュラム・マネジメントと「PDCA」サイクル 第14回：学力や授業設計を起点とした教育課程評価（カリキュラム評価） 第15回：教育課程評価（カリキュラム評価）を巡る「ピア・ラーニング」 定期試験			
テキスト 「教育の本質と教師の学び」2019年 高橋浩・金田健司編著 学文社			
参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 総則編」文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 総則編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 総則編」文部科学省			
学生に対する評価 定期試験（100%）			

授業科目名： 道徳教育の指導法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野浪俊子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 学校における道徳教育の目標、そのために必要な資質と能力を理解し、学習指導要領に示された内容と指導法について実践能力を培うとともに、教育史や倫理学、心理学の知識を補うことにより、道徳性と道徳教育の本質について考え認識を深める。			
授業の概要 前半では、学習指導要領の理解と学習指導案の作成、模擬授業の実施を通じて、道徳教育の指導力を養成し実習に備える。後半では、日本の道徳教育の歴史や課題、道徳性発達の理論、道徳理論（倫理学）を学び、道徳性と道徳教育の本質について考え認識を深める。			
授業計画 第1回：「特別の教科 道徳」の目標及び内容 第2回：学校の教育活動全体を通じた道徳教育とその指導計画 第3回：道徳科の指導方法と教材の多様性 第4回：道徳科の学習指導案・道徳科の評価 第5回：模擬授業と振り返り①（主として自分自身に関する事） 第6回：模擬授業と振り返り②（主として人との関わりに関する事） 第7回：模擬授業と振り返り③（主として集団や社会との関わりに関する事） 第8回：模擬授業と振り返り④（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事） 第9回：日本の道徳教育の歴史 第10回：現代の道徳教育の課題①（いじめ問題を中心に） 第11回：現代の道徳教育の課題②（情報モラルを中心に） 第12回：子どもの道徳性の発達 第13回：倫理学と道徳教育①（カント倫理学と功利主義を中心に） 第14回：倫理学と道徳教育②（徳倫理学とケア倫理学を中心に） 第15回：まとめ（「道徳性」「道徳教育」の本質を考える） 定期試験			
テキスト 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」文部科学省 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」文部科学省			
参考書・参考資料等 「道徳教育の理論と方法」2020年 広岡義之 他編著 ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 定期試験（50%）、模擬授業（指導案作成を含む）（50%）			

授業科目名： 道徳教育の指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野浪俊子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 道徳教育の意義や道徳性の発達を理解し、道徳科の学習指導要領に示された目標や指導内容を身に付け、学習指導案に基づく模擬授業を通して実践的指導力を養う。 ①道徳の諸理論に基づき、道徳の意義や道徳性の発達について理解する。 ②学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標や指導内容について理解する。 ③道徳科の学習指導案を立案し、模擬授業を通して実践的指導力を身に付ける。			
授業の概要 学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の意義と目的について理解し、「特別の教科道徳」の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけることを目指す。			
授業計画 第1回：「特別の教科道徳」の本質と教育目的 第2回：現代社会における「特別の教科道徳」の意義（いじめ・情報モラルなどを巡って） 第3回：子どもの心の成長と道徳性の発達 第4回：「中学校学習指導要領（特別の教科道徳編）」に基づく道徳の目標と指導内容 第5回：「中学校学習指導要領（特別の教科道徳編）」に基づく道徳教育と学校教育活動 第6回：「特別の教科道徳」における授業設計と多様な指導法 第7回：「特別の教科道徳」における授業設計と教材研究 第8回：「特別の教科道徳」における授業設計と評価 第9回：道徳科学習指導案の検討・作成：（LTD法「Learning Through Discussion」を用いて） 第10回：「模擬授業1」（主として自分自身に関すること） 第11回：「模擬授業2」（主として人との関わりに関すること） 第12回：「模擬授業3」（主として集団や社会との関わりに関すること） 第13回：「模擬授業4」（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること） 第14回：模擬授業振り返り1（学習指導過程）「振り返りシート」を用いた「ピア・ラーニング」 第15回：模擬授業振り返り2（指導方法と評価）「振り返りシート」を用いた「ピア・ラーニング」 定期試験			
テキスト 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」文部科学省			
参考書・参考資料等 「道徳教育の理論と方法」2020年 広岡義之 他編著 ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 定期試験（50%）、模擬授業（指導案作成を含む）（50%）			

授業科目名： 総合的な学習の時間の指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野浪俊子、宗建郎 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 横断的・総合的な学習の時間を通して、探求的・問題解決的な考え方の資質・能力を育成し自己 の生き方を考える教育の重要性について理解する。 ①総合的な学習の時間・探究の時間の意義や目標及び内容について理解する。 ②総合的な学習の時間・探究の時間の指導計画を理解し、教育実践に必要な基礎的能力を身に付け る。 ③総合的な学習の時間・探究の時間の指導と評価及び実践上の留意点を踏まえて、探求的・問題解 決的な教育実践の指導計画が立案できる。			
授業の概要 本科目では、「総合的な学習の時間（中学校）」及び「総合的な探究の時間（高等学校）」の指 導法を理解・修得するために必要な「①総合的な学習（探究）の時間の意義及び目標」 「②総合的な学習（探究）の時間の指導計画・指導内容」「③総合的な学習（探究）の時間の評価 及び実践方法」について学ぶ。			
授業計画 第1回：「総合的な学習の時間・探究の時間」の意義と教育課程において果たす役割（担当：野浪俊子） 第2回：「総合的な学習の時間（中学校）」における『学習指導要領』に示された目標と指導内容（担 当：野浪俊子） 第3回：「総合的な学習の時間（中学校）」における指導方法と指導上の留意点（担当：野浪俊子） 第4回：「総合的な学習の時間（中学校）」における学習活動と評価方法及びその留意点（担当：野浪俊 子） 第5回：「総合的な探究の時間（高等学校）」における『学習指導要領』に示された目標と指導内容（担 当：野浪俊子） 第6回：「総合的な探究の時間（高等学校）」における指導方法と指導上の留意点（担当：野浪俊子） 第7回：「総合的な探究の時間（高等学校）」における学習活動と評価方法及びその留意点（担当：野浪 俊子） 第8回：年間指導計画の考え方と留意点（担当：宗建郎） 第9回：単元計画の考え方（担当：宗建郎） 第10回：探究的な学習の手法1 思考支援ツール（担当：宗建郎） 第11回：探究的な学習の手法2 調べ学習とディスカッション（担当：宗建郎） 第12回：年間指導計画の作成1 オリエンテーション（担当：宗建郎） 第13回：年間指導計画の作成2 ディスカッションとフィードバック（担当：宗建郎） 第14回：単元計画の作成1 オリエンテーション（担当：宗建郎） 第15回：単元計画の作成2 ディスカッションとフィードバック（担当：宗建郎） 定期試験			
テキスト 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編」文部科学省			
参考書・参考資料等 「新学習指導要領の展開 総合的な学習編」2017年 田村学編著 明治図書 「生活・総合アクティブ・ラーニング」2015年 田村学編著 東洋館			
学生に対する評価 定期試験（40%）、レポート課題（40%）、授業態度（20%）			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新納雅樹
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 本科目は、学校教育の特別活動の基本的性格と教育的意義や内容について学習指導要領等を通して理解を深め、人間関係形成・社会参画・自己実現や「チームとしての学校」の視点に留意しながら学級活動の模擬授業を体験して、生徒理解や指導の在り方等について習得する。 (1) 学習指導要領等を通して、特別活動の意義、目標及び内容、指導の在り方を理解する。 (2) 教育課程における特別活動の位置づけと各教科等との関連を理解する。 (3) 学級活動・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等の特質を理解する。 (4) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導、集団活動の意義等を理解する。 (5) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解する。			
授業の概要 毎時間手作りのプリント(冊子)を準備する。学校現場での経験を生かして、特別活動に関する講義等を行い学生自らが考えて解決に向けて行動するよう、適宜グループ活動や意見発表などを通して、今日的テーマによる「学級活動」の実際について学ぶ。			
授業計画 第1回：Ⅰ 学校教育における特別活動の意義、目標と内容(学習指導要領) 第2回：学校教育における特別活動の位置付けと各教科・生徒指導との関連(学習指導要領) 第3回：学級活動・ホームルーム活動の理解(学習指導要領) 第4回：生徒会活動・クラブ活動・学校行事等の特質等の理解(学習指導要領) 第5回：Ⅱ 特別活動の変遷(学習指導要領) 第6回：Ⅲ 特別活動の指導内容(特別活動指導案の作成)グループ活動中心 第7回：特別活動の模擬授業(学級活動の実際)意見交換・相互評価 第8回：特別活動の模擬授業(ホームルーム活動の実際)意見交換・相互評価 第9回：特別活動の模擬授業(生徒会活動の実際)意見交換・相互評価 第10回：特別活動の模擬授業(学校行事の実際)意見交換・相互評価 第11回：Ⅳ 特別活動の指導内容(テーマ決定、話し合いの方法)グループ活動中心 第12回：特別活動の指導内容(合意形成に向けた話し合い活動)グループ活動中心 第13回：特別活動の指導内容(意思決定につながる指導)グループ活動中心 第14回：特別活動の指導内容(家庭・地域・関係機関との連携)グループ活動中心 第15回：Ⅴ 特別活動 展望と課題(学習指導要領から)海外でも注目されている特別活動 定期試験			
テキスト 教科書は特に指定しない。毎時間講義中に配付するプリント(冊子)を使用する。			
参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領(平成29年3月告示)解説 特別活動編」文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年3月告示)解説 特別活動編」文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)」文部科学省 「小学校学習指導要領」文部科学省 東京書籍 「中学校学習指導要領」文部科学省 東京書籍 「高等学校学習指導要領」文部科学省 東京書籍			
学生に対する評価 定期試験(60%)、模擬授業(20%)、受講態度・課題(20%)により総合的に評価する。			

授業科目名： 教育の方法と技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本朋弘
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、教育の方法と技術に関する歴史的変遷を踏まえ、児童生徒の資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術のあり方を具体的に理解することをねらいとする。授業でのICT等の情報機器及び教材の活用に必要な基礎的知識・技能を習得する。			
授業の概要 教職に関する科目（教育課程および指導法に関する科目） (5)教育の方法および技術（情報機器及び教材の活用を含む） 教育の方法と技術に関する歴史的変遷や現在の教育課題の解決に対応した教育の方法及び技術のあり方について理解を深める。具体的な授業場面を取り上げ、グループ演習や指導案作成を通じて、授業設計や教材開発、学習評価、ICT機器や教材の活用の基礎を学ぶ。			
授業計画 第1回：教育方法及び技術を学ぶ意味（オリエンテーション含む） 第2回：教育方法及び技術の史的変遷 [課題1] 第3回：教育方法の基礎的理論 [小テスト] 第4回：目標分析と教材開発の基礎 [課題2] 第5回：学習指導要領のねらい 主体的・対話的で深い学びの実現1 学習評価の基礎的考え方1 第6回：授業設計の基礎的理論 基礎的技術としての発問や板書 第7回：学習指導要領のねらい 主体的・対話的で深い学びの実現2 学習評価の基礎的考え方2 第8回：指導技術の基礎（発問、板書、ノート指導等） ICTを活用した教材作成 [課題3] 第9回：学習形態（個別最適な学びと協働的な学び） 指導案作成の実際1 [小テスト] 第10回：学習活動の構想、指導案作成の実際2 第11回：指導技術とICT活用 第12回：授業研究の手法と進め方 第13回：作成した指導案の相互評価・改訂版の作成 第14回：情報活用能力の育成と情報教育の推進 [課題4] 第15回：教育の方法及び技術における現代的課題と展望、授業の総括 定期試験は実施しない。			
テキスト 教科書は特に使用しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。			
参考書・参考資料等 学習指導要領及び解説 文部科学省 「教育の情報化に関する手引」2019年 文部科学省			
学生に対する評価 発表状況・フォーラムへの投稿（25%）、小テスト（25%）、課題1・2（25%）、課題3・4（25%）の累積で評価する。			

授業科目名： 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邊光浩 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ICTの活用の意義と理論を理解している。 ICTを活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。 情報活用能力を育成するための基礎的な指導方法を身につけている。 ICTを活用した授業を計画・実施し、改善策を考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ICT（情報通信技術）機器やインターネットが広く普及している。学校教育においても、学習活動の一層の充実のために1人1台端末環境が整備されたり、教員の業務改善・効率化のために校務の情報化が進められたりしている。そこで、ICTを活用した学習指導、校務の推進の在り方、児童・生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。</p> <p>プレゼンテーションや動画コンテンツ、「教育の情報化に関する手引」などの情報を得ながら、ICTによる授業支援ツールを用いた参加型の授業とする。毎時間後、Webフォームを用いて振り返りを行う。</p> <p>また、ICTを活用した模擬授業を計画・実施し、それをもとにしたディスカッションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の情報化とは 第2回：教科等の授業における教師のICT活用 第3回：遠隔・オンライン教育 第4回：教科等の授業における児童のICT活用 第5回：情報活用能力の育成 第6回：情報モラル教育 第7回：プログラミング教育①目的や指導内容 第8回：プログラミング教育②指導の実際 第9回：ICTを活用した模擬授業準備 第10回：特別支援におけるICT活用 第11回：校務の情報化 第12回：教育データの活用と教育情報セキュリティ 第13回：外部との連携や環境整備 第14回：ICTを活用した模擬授業についてのディスカッション 第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>「情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術」2019年 堀田龍也・佐藤和紀 三省堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「教育の情報化の推進」文部科学省 「教育の情報化に関する手引」2019年 文部科学省</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の振り返り（60%）、模擬授業（20%）、最終レポート（20%）で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 生徒指導の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川津 優、 野元明日香、松元理恵子 担当形態：複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 生徒指導に関して、教育相談も含めた、教員に求められる資質・能力及び学校の体制の在り方等への深い理解を通して、現場で通用する実践力の基礎を培う。 1. 生徒指導の定義・教育的意義・学校教育の諸場面での実施概要等について理解する。 2. 学校組織及び各教員の教育活動全ての場で発現する「生徒指導の機能」を具体的に理解する。 3. 児童生徒の個性や人格を尊重する精神、コンプライアンスの徹底等の理解を深める。 4. 生徒指導における集団的指導及び個別的課題への対応の中核をなす教育相談等の対応を行うためのスキルや知識の基礎を習得する。 5. 学校が組織的に生徒指導を行う必要性について十分理解し、その一員として役割を果たそうとする自覚を持つ。 6. 以上の深い理解やスキル習得の努力を通して、教員として生徒指導を行うための実践力の基礎を培う。			
授業の概要 1. 生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的としている。これらは、教員が個々に行うだけでなく、校長を中心とした学校全体での組織的取り組みや、保護者・諸機関・専門家等外部との連携をも含めた「チーム学校」の中でこそ、十全な成果をもたらす。 2. また、生徒指導の一環であり、中心的役割を担うものとして教育相談がある。児童生徒・保護者等が持つ諸課題の解決に資する教育相談には、相互信頼を基盤とした、「人間対人間」の関係性の心構えが教員に求められる。 3. 従って、本科目「生徒指導の理論と方法」では、教員の多面的な視野・広い教養・高い人格、さらにはチームとして協力し合える態度といった教員としての資質・能力の向上、及び十全な児童生徒等の理解、並びに教育相談の在り方等に関する支援法・指導法の力量を高めることを目指している。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（生徒指導とは） 第2回：生徒指導の2軸3類4層構造（重層的支援構造） 第3回：生徒指導の基礎（児童生徒理解、教師の自己開示、子どもの権利を守る条約・法律） 第4回：生徒指導と教育課程①（学習指導と生徒指導の関連付け、学級・ホームルーム経営） 第5回：生徒指導と教育課程②（道徳教育・総合的な学習〔探究〕の時間・特別活動と生徒指導） 第6回：チームによる生徒指導①（チーム学校、校務分掌） 第7回：チームによる生徒指導②（PDCAサイクル、チーム支援の形態とプロセス） 第8回：いじめ問題と生徒指導 第9回：暴力行為と生徒指導 第10回：少年非行に対する生徒指導 第11回：児童虐待と生徒指導 第12回：児童生徒の自殺問題 第13回：不登校児童生徒への生徒指導 第14回：性的マイノリティに対する理解 第15回：学校現場におけるその他の諸問題と生徒指導 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 「生徒指導提要」2022年 文部科学省 「四訂版 入門 生徒指導-持続可能な生徒指導への転換」2022年 片山紀子著 学事出版			
学生に対する評価 定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）			

授業科目名： 学校臨床と教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：花形武 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 講義や専門家の話を通して、教育相談の理論と実際について説明をする。			
授業の概要 学校における教育相談の意義と理論・基礎知識及び具体的な対応について理解をする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・心理学と教育心理学 第2回：発達と教育心理学 第3回：学校における生徒指導の中の教育相談 第4回：学校教育相談におけるアセスメント 第5回：各不適應におけるアセスメント 第6回：学校教育相談の心構えと体制作り 第7回：学校教育相談における基本的カウンセリング技法 第8回：気になる子どもへの支援 第9回：保護者への関わり方 第10回：いじめ問題等への対応 第11回：不登校の分類と関わり①（不登校の分類と学校生活上の問題タイプ） 第12回：不登校の分類と関わり②（身体的・発達的な問題タイプと学校に行きなきゃタイプ） 第13回：不登校の分類と関わり③（学校に行く意味がないタイプ） 第14回：振り返りと補足説明 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜資料は配布するが、参考文献を購入することが望ましい。			
参考書・参考資料等 「明日から教壇に立つ人のための教育心理・教育相談」2014年 田邊敏明・大石英史・沖林洋平・小野 史典・押江隆（著） 北大路書房			
学生に対する評価 最終評価は受講態度30%、試験・レポート70%で評価する。			

授業科目名： 進路指導の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永田正明、 志賀玲子 担当形態：複数・オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 進路指導・キャリア教育の基礎知識を修得し、進学や就職、生涯設計等に関して生徒に主体的な行動を促す方法と、一人ひとりが抱える課題に向き合う指導の在り方、これらを支える学校内外の組織的体制を踏まえた教師の役割を理解する。			
授業の概要 進路指導・キャリア教育の意義や理論、方法、動向を取り上げ、社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力の育成を図るためには生徒をどのように援助すればいいのか考える。具体的な指導計画例や事例については、ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、パネルトーク等のアクティブ・ラーニングを頻繁に取り入れながら理解を進める。 また、社会情勢について考え、オープンリソースの活用や高大連携の在り方についても検討する。			
授業計画 第1回：キャリア教育とは（担当：志賀玲子） 第2回：キャリア教育の意義（担当：志賀玲子） 第3回：キャリア教育の理論（担当：志賀玲子） 第4回：キャリア教育の視点と方法（担当：志賀玲子） 第5回：キャリア教育における学校教育と家庭との連携の在り方（担当：志賀玲子） 第6回：キャリア教育における学校教育と関係機関等との連携の在り方（担当：志賀玲子） 第7回：キャリア教育における学校教育と地域社会との連携の在り方（担当：志賀玲子） 第8回：進路指導の視点と指導の在り方（応用）（担当：永田正明、志賀玲子） 第9回：進路指導の組織的な指導体制（応用）（担当：永田正明、志賀玲子） 第10回：進路指導の進め方と課題（応用）（担当：永田正明、志賀玲子） 第11回：進路適性と指導の在り方（応用）（担当：永田正明、志賀玲子） 第12回：体験活動と進路情報（応用）（担当：永田正明、志賀玲子） 第13回：特別な支援や配慮の必要な生徒への進路指導と支援の在り方（応用）（担当：永田正明、志賀玲子） 第14回：進路指導の技法と具体的な指導計画例（担当：永田正明、志賀玲子） 第15回：進路指導とキャリア教育のまとめ（担当：永田正明、志賀玲子） 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配布する。また、オープンリソースやアクティブ・ラーニングに関してウェブ上の素材を用いることもある。			
参考書・参考資料等 「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」2023年 文部科学省 「中学校・高校におけるキャリア教育実践テキスト」2012年 厚生労働省 実業之日本社 「変わる！キャリア教育」2016年 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター ミネルヴァ書房 「高等学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領」、「生徒指導提要」他、適宜紹介する。			
学生に対する評価 参加態度40%、ワークシート20%、定期試験40%			

シラバス：教職実践演習（中・高）

シラバス：教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名 教科担当：玉田理沙子 教職担当：新納雅樹、野浪俊子、木下昌也、山喜高秀	
科 目		教育実践に関する科目			
履修時期		4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)
受講者数 20 人					
教員の連携・協力体制 5人の教員が担当してオムニバス形式で行う。					
授業のテーマ及び到達目標 教師に求められる資質・能力、さらには、確かな実践的指導力の獲得を目指す。詳細には、次の4つの事項を目標とする。 (1) 教師の使命感や責任感、教育的愛情等について再考し理解する。 (2) 教師に求められる社会性や対人関係能力について理解し、他者とコミュニケーションを図ることができる。 (3) 児童・生徒理解や学級経営等に関して理解を深め自分なりの意見を述べるができる。 (4) 教科内容等に基づいた実践的指導力を身につけ、授業展開を実施することができる。					
授業の概要 本科目は、教師を目指す者として、大学4年間で修得したことや教育実習の経験、さらには「履修カルテ」に基づき、教師に必要な資質・能力について確認し自己省察する。さらには、教員としての使命感や責任感、生徒理解や教科指導等について振り返り、教師に求められる知識・理解、資質能力、実践的指導力の統合を目指す。					
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の目的と概要・教育実習や「履修カルテ」に基づく自己省察）（担当：野浪俊子） 第2回：「使命感、責任感、教育的愛情」：「学校現場の理解（1）」（教師の役割、学級経営、職務内容の振り返り）（担当：新納雅樹） 第3回：「使命感、責任感、教育的愛情」：「学校現場の理解（2）」（教師の役割、学級経営、職務内容の振り返り）（担当：新納雅樹） 第4回：「使命感、責任感、教育的愛情」：「学校現場の理解（3）」（教師の姿：ゲストティチャーによる講話）（担当：新納雅樹） 第5回：「社会性、対人関係能力」：「教師に求められる社会性・対人関係能力（担当：新納雅樹） 第6回：「社会性、対人関係能力」：「学校づくりと地域や保護者との連携」（担当：新納雅樹） 第7回：「児童生徒理解」：「発達に基づく児童生徒理解」（担当：木下昌也） 第8回：「児童生徒理解」：「生徒指導の在り方・現状と課題」（担当：山喜高秀） 第9回：「児童生徒理解」：「児童生徒理解に基づく道徳教育」（担当：野浪俊子） 第10回：「教科指導力」：「模擬授業（1）実習全体の振り返りと共有」（情報通信技術活用の指導を含む）（担当：玉田理沙子） 第11回：「教科指導力」：「模擬授業（2）安全管理の実践と具体策」（担当：玉田理沙子） 第12回：「教科指導力」：「模擬授業（3）実習経験を活かした実践」（担当：玉田理沙子） 第13回：「教科指導力」：KJ法に基づく授業づくり（担当：野浪俊子） 第14回：「教科指導力」：LTD法に基づく授業づくり（情報通信技術活用の指導を含む）（担当：野浪俊子） 第15回：総括（求める教師像や「履修カルテ」に基づく自己省察・自己課題の探究・自己評価）（担当：野浪俊子） 定期試験は実施しない。					
テキスト 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」文部科学省、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」文部科学省、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省					
参考書・参考資料等 「生徒指導提要」2022年 文部科学省 「新・教職課程演習第22巻 教育実習・教職実践演習」2021年 三田部勇・米沢崇（編著）協同出版					
学生に対する評価 各フェーズ毎に担当者が評価する総括レポート（90%）、「履修カルテ」に基づく自己評価・自己省察（10%）					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。